

## 地方移住の理想と現実

愛媛大学 法文学部 有馬元輝  
米田誠司

### 序章

近年、日本では地方移住について、文献やインターネットなど、場所を問わず多くのメディアで様々な議論が展開されてきた。同時に東日本大震災以降、若い世代の地方移住が着目されてきた<sup>1</sup>。こうした現象は、どのような背景や心情から生まれたものなのか、そして地方移住の理想と移住後の現実の生活に、ギャップがないのかについてみていくことが本稿の目的である。

その狙いは、地方移住の選択をした人々の生活や人生を描き出し、その移住が移住者の人生についてどのような意味を持つのか、どのように生活に作用するのかを考察することである。同時に、移住者の志向について深く理解し、その背景や人生について考察する本稿の内容が移住政策や将来の移住者の方向性を決定していくのに多少なりとも寄与することである。

日本における人の流動に関して、その現象について多くの研究が行われてきた。地方から都市への人口流動について、奉公や高度成長期の集団就職や学歴社会による移動といったものから国勢調査などの大量のデータに基づくものまで研究がなされてきた。しかし、本稿で試みる地方移住の語られ方と現実の移住者の生活や人生のギャップに注目し、それを個人の具体的な事例から確認しようという研究はまだ多くない。類似の研究として井戸(2017)<sup>2</sup>や轡田(2017)の研究<sup>3</sup>が挙げられるが、それぞれ「地域おこし協力隊」に着目したものや、若者研究を土台に「地方暮らしの若者」に焦点をあてたものであることから、本稿の地方移住に関するメディアと地方移住者の生活について着目したものは、やや違いがあると考えられる。

本稿では、まず第1章で本稿における「地方」と「地方移住」とは何なのかを確認し、第2章で

地方移住に関するメディアでの語られ方を整理したうえで、移住者の語りから得られるライフヒストリーを描き出す。そして第3章では、第2章で得られた結果から、地方移住の理想と現実について分析し、移住者の特性を描く。その上で、この移住形態が何によってもたらされるのかについて考察していきたい。

### 第1章 地方移住と人口流動の変遷

#### 1-1 地方とは地方移住とは何か

そもそも地方移住の地方とはどのようなところなのだろうか。中国、四国地方というようにその地域のほうを表す場合にも使われるが、首都に対する意味としても使われる。政策研究などの分野でも地方は中央—三大都市圏—と対比される概念として使われてきた。また、地方と聞くと「田舎」のようなイメージを持つが、地方都市という言葉もあるように、地方であっても都市的な機能を持つ地域は存在する。それではどこまでが地方でどこからが地方でないのだろうか。

轡田(2017)は地方について、都市雇用圏<sup>4</sup>の概念を用いて、人口が30万人以上の基準を満たす三大都市圏以外の都市雇用圏を「地方中枢拠点都市圏」、20万人以上をそれに準ずる地域、それ以外を条件不利地域と分類した<sup>5</sup>。

たしかに、三大都市圏以外にも人口が多く、また都市部への通勤者が多い地域が存在する。もはや地方か地方ではないかという基準を都道府県や市町村別に把握することは困難だろう。そこで本稿では、地方についてその多義的な意味を踏まえながらも、その基準については、轡田(2017)の地方中枢拠点都市圏、それに準ずる地域、条件不利地域の分類を用いて理解していきたい<sup>6</sup>。

では地方移住とはどのような意味なのだろうか。

佐藤・城所・瀬田(2014)は「過去の人口移動と逆向き」—東京圏への転入超過の動きとは逆の—かつ「二地域居住人口」など多様な人口を含む、「東京圏から圏外への人口流動」を広義の地方移住としている<sup>7</sup>。

これも中央に対し地方を置き、そこからの人口流動を地方移住としている。特徴的なのは東京圏から圏外への人口流動を中心に考えているところだろうか。もちろん、過去の東京圏への人口集中の動きと逆向きの動きとして地方移住を捉えることもできる。しかし、東京圏以外の名古屋圏、大阪圏からの人口流動も地方移住に含まれるのではないだろうか。それでは、「地方中枢拠点都市圏」などの地方都市からの条件不利地域への人口流動は地方移住に含まれるのだろうか。これについては、都市的機能を持つ地域から条件不利地域への移動という点で、地方移住という枠組みに含まれそうに考えられるが、本稿では同じ地方という枠組みの中での人口流動ということを考え、地方移住に含まないこととする。

このように地方と地方移住については、その言葉の意味が広いため様々な解釈が存在するが、本稿では地方については中央—三大都市圏—に対する概念として地方を用い、その分類としては嚮田(2017)の条件による分類を用いる<sup>8</sup>。地方移住については佐藤ら(2014)の概念を踏まえつつも<sup>9</sup>、三大都市圏から地方中枢拠点都市圏、それに準ずる地域、条件不利地域への多様な人口流動を地方移住として用いる。

### 1-2 地方移住の形

前述したように、地方移住の形には単なる人口移動や住居変更だけでなく多様な形がある。ここではその地方移住の形について整理していきたい。

人口移動の経路として、地方移住に関してはUIJターン<sup>10</sup>の3つに分けられるが、名称だけでも孫ターンといったその移住者の属性に着目するものやその理由に着目するもの、二拠点居住、二拠点就労と二つの拠点を持つものや、二段階移住といった段階を踏むものまでその形は多様であ

る。

これらの多様な地方移住の形が生まれたのはなぜだろうか。その理由はライフスタイル移住によるものではないかと考えてみたい。

ライフスタイル移住 (lifestyle migration) について Michaela Benson, Karen O'Reilly(2009)は「より良い生活のために移動する現象 (Since this phenomenon of moving for a better way of life<sup>11</sup>)」としている。

このような、これまでの仕事等の理由による移住とは性格の異なる生活の質を求める移住が、近年の地方移住を形作っているのではないだろうか。

長友(2015)はライフスタイル移住が包含している新しい移住形態の共通点について、(1) 中間層をめぐる労働市場やライフコース価値観の変化が関連している点、(2) 観光や滞在経験と移住の関連性、および(3) 移住の意思決定における想像力の役割の3点を挙げている<sup>12</sup>。このような理由からライフスタイル移住が生まれ、それが現在、様々な名称で国内でも注目されているということも予想される。

本稿では、近年の地方移住の動きについて、このライフスタイル移住という概念を基礎に置きながら考察したい。

### 1-3 中央から地方へ

中央から地方への移動について前述したように多様な動きがある。政策的な点を考えれば、日本創生会議が発表した人口減少による「消滅可能性都市<sup>13</sup>」の議論が多くの議論を生み、国は「まち・ひと・しごと創生本部」を設立した。国と地方自治体は地方創生の政策のひとつとして、様々なUIJターン移住者支援政策を行っている。

労働政策研究・研修機構(2016)は、大都市出身者の地方移住についてアンケート調査からまとめているが、これによれば、転勤を機とした移動が最も多い中で、就職、転職、結婚を機とした移住も多く見られる。また移住の理由としても、勤務先の都合や希望する仕事があったためが多いが、少数ながらも自分らしい生き方をするためや、豊

かな自然環境に惹かれたためなど、個人の価値観や生活環境に起因するものもあるとしている<sup>14</sup>。

近年、日本ではこのように地方が目ざされると同時に、政策的にも中央から地方への移動をもたらす動きがあった。また前述したようなライフスタイル移住も、量的な調査ではあまり反映されにくいですが、確実に日本国内の移住の形としても存在するものだと考えられる。

## 第2章 地方移住の語られ方

### 2-1 地方移住に関するメディアの調査

ここでは地方移住の「理想」を把握するため、地方移住に関する雑誌メディアの特集、見出しのテキスト分析を行った。

地方移住は様々なメディアで取り上げられているが、特に雑誌メディアはそのライフスタイルを紹介、提案するという意味で、ライフスタイル移住と関わる地方移住においてその理想が表れているのではないかと考えた。特に特集や見出しのテキストは読者の目に入りやすく、理想やイメージ形成に大きく関わっているのではないかと予測し、これらのテキストを分析することとした。

#### 2-1-1 調査対象と調査方法

本稿では、近年の移住に関するメディアの調査対象として、雑誌『TURNS』（第一プロGRESS）と『ソトコト』（木楽舎）を用いた。

『TURNS』は、前述したWebサイトやイベント等を通じて、地方移住に関する情報発信などを行っている<sup>15</sup>。雑誌としては2012年創刊で、2017年12月9日現在、Vol.26まで発刊されている<sup>16</sup>。『TURNS』は比較的新しく、また雑誌以外の活動内容等から考えても、近年を代表する地方移住に関する雑誌メディアだと考える。近年の地方移住の動き、メディアでの語られ方を捉えることも本稿の目的の一つであり、若干の偏りがあることは否めないが、近年の地方移住に関するデータが十分に得られることと判断した。

『ソトコト』は、「スローライフ」や「ロハス<sup>17</sup>」などのライフスタイルを提案してきたソーシャル

&エコ・マガジンだ<sup>18</sup>。1999年に創刊し、2017年12月9日現在、No.223まで発刊されている。

『ソトコト』は雑誌のメインとして地方移住を掲げているわけではないが、2010年12月号No.138の特集「日本列島移住計画」などから、国内の移住に関する特集が度々登場する。

加藤（2006）は、『ソトコト』はロハスを日本に広める中心的な役割を担い続けている。」と述べている<sup>19</sup>。

ライフスタイル移住者の志向に関する研究で谷垣（2017）は、北海道清里町、小清水町と奈良県奥大和地域のアンケート調査からその心理特性についてローカルコミュニティ志向、エコロジー志向、ビジネス志向を挙げ、これらが「LOHAS」概念と共通する価値観であると指摘している<sup>20</sup>。

これらのことから『ソトコト』の特集の変化を分析することで、日本におけるロハスの視点の変化と地方移住の関わりを捉えることができるのではないかと期待し、調査対象とした。

調査方法として、『TURNS』のVol.1～Vol.26から目次の見出しと特集を、『ソトコト』のNo.1～No.223から特集をそれぞれバックナンバーより筆者の手によって収集し<sup>21</sup>、それらを雑誌別にテキスト文章に入れた。テキストデータを分析するソフトKH Coder<sup>22</sup>のプロジェクトからそれらのファイルを読み込み、それぞれ分析した。まず『TURNS』は、語の取捨選択から、抽出されにくいと思われる語を強制抽出の語として設定した<sup>23</sup>。前処理を実行し、KH coderのツールから頻出語150を抽出し<sup>24</sup>、筆者の手で上位20までをまとめた。次に、それぞれの語がどのような形で用いられているのか理解するため、ツールの共起ネットワークから、共起ネットワーク図—共起の強い語を線で結んだ図—を描いた<sup>25</sup>。さらに、『ソトコト』に関しても強制抽出する語を設定し<sup>26</sup>、前処理を実行しKH coderのツールから頻出語150を抽出<sup>27</sup>、筆者の手で上位20までをまとめた。また、ツールから共起ネットワーク図を描写<sup>28</sup>、さらに、『ソトコト』の変化と近年の地方移住の形態の出現を探るため、年ごとに「見出し」

を分け、ツールの外部変数と見出しからリストを操作、集計し、特徴語を抽出した。

### 2-1-2 『TURNS』の結果

『TURNS』のVol.1～Vol.26の目次から得られた特集と見出しの総数は294件だった。頻出語を抽出し上位20までをまとめたのが表1である。

最も多く抽出されたのが【町】、続いて【人】である。さらに、地方移住に密接に関わる雑誌なの

であたりまえだが、【地方】【移住】【地域】といった語が多く抽出されている。【暮らし】や【暮らす】といった生活に関する語や【島】【自然】【海】といった自然に関する語、【働く】【仕事】【ワーク】などの仕事に関する語もあった。また、【自分】【生かす】などの自己実現を連想させる語も特徴的だろうか。形容詞に注目すると一番多く抽出されたのは【新しい】であった。

表 1: 『TURNS』 Vol.1～Vol.26 の特集と見出しの頻出語上位 20 まで

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
町	32	自然	10
人	24	暮らす	10
地方	24	ローカル	9
移住	22	海	9
地域	21	日本	9
暮らし	14	仕事	8
島	12	自分	8
新しい	11	生かす	8
働く	11	発信	8
魅力	11	ワーク	7

出所：『TURNS』 Vol.1～Vol.26 の目次を基に KH Coder を用いて筆者作成。

再び、『TURNS』で得られた294件の見出しと特集からKH Coderを用いて共起ネットワーク<sup>29</sup>を描いたのが図1である。これは共起が強いほど太い線で結ばれ、また、円の色が濃いほど媒介中心性が高い。

まず、色の濃い語—媒介中心性が高い語—に注目して共起関係をみると、【運営】、【住宅】、などを中心に【活動】や【就職】【クラフトビ

ール】【提案】などと結びつきがあることが分かる。他にも、【個性】【楽しめる】【お客】などと【生産】【夢】【セレクトショップ】などの結びつきがわかる。線が太い語—共起関係が強い語—のつながりをみると、【幸せ】と【身近】や【成功】【秘訣】【起業】や【里】【人情】【山里】【豊か】のつながり、【若者】【つながり】【コト】などの共起関係が強いことなどが読み解ける。

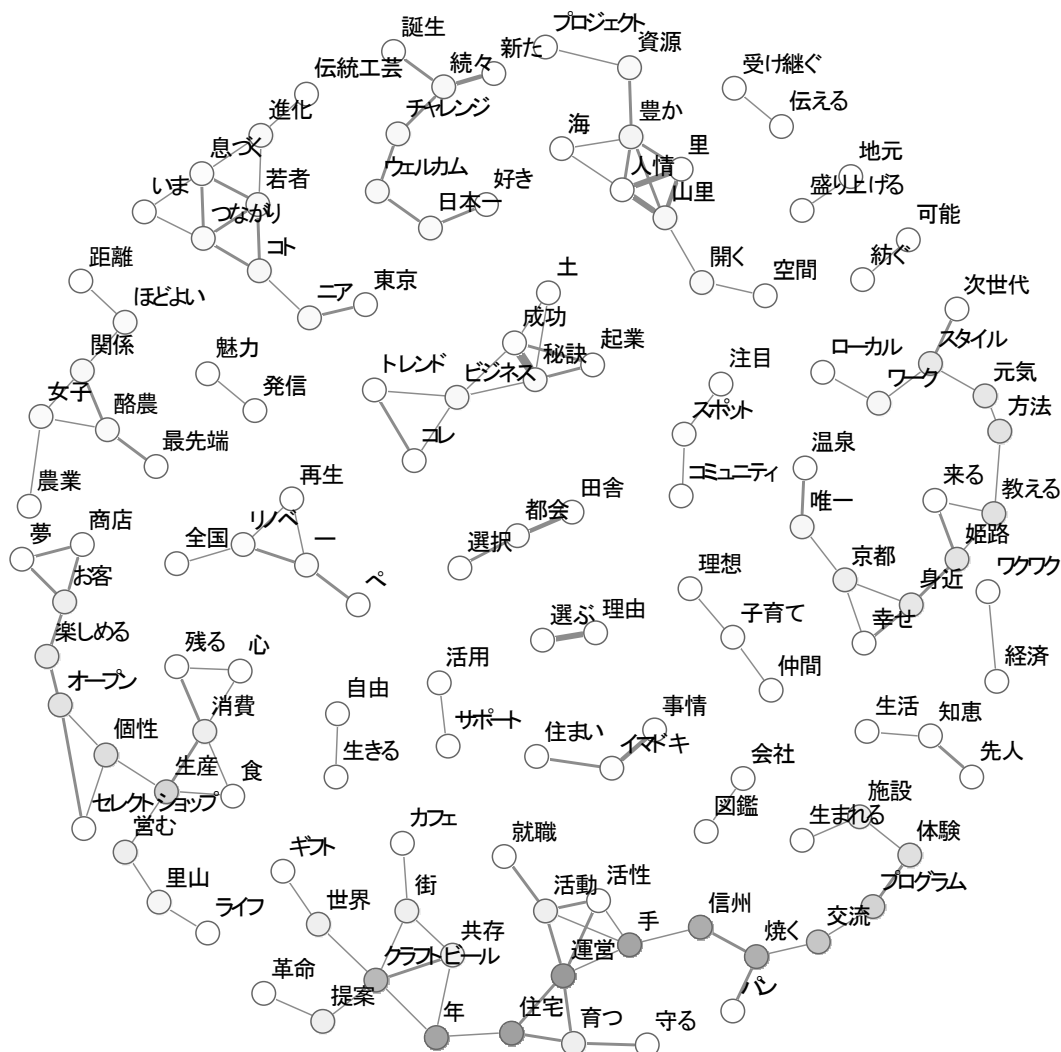


図1：『TURNS』Vol.1～Vol.26の特集と見出しの共起ネットワーク分析

出所：『TURNS』Vol.1～Vol.26の目次を基にKH Coderを用いて筆者作成。

### 2-1-3 『ソトコト』の結果

『ソトコト』No.1～No.223から得られた特集は223件であった。頻出語を抽出し上位20までをまとめたのが表2である。

雑誌の特徴から【ロハス】や【エコ】【スロ

ーフード】【スローライフ】などが多く抽出されている。また、地方移住に関連する【地方】、【移住】というものや関連性がありそうなものとして【家】【人】【計画】等が抽出された。【日本】や【ニュージーランド】といった国名が多いのも特筆すべき点だろうか。

表 2 : 『ソトコト』 No.1~No.223 の特集の頻出語上位 20

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
ロハス	21	人	7
エコ	16	スローライフ	6
日本	15	ニュージーランド	6
保存	12	移住	6
スローフード	10	完全	6
社会	9	環境	6
ガイド	8	計画	6
デザイン	8	入門	6
地方	8	エネルギー	6
家	7	グリーン	6

出所 : 『ソトコト』 No. 1~No. 223 の特集を基に KH Coder を用いて筆者作成。

『ソトコト』で得られた 223 件の特集から、KH Coder を用いて共起ネットワークを描いたのが図 2 である。

これも円の色が濃い語から見ていくと【農業】を中心にした【野菜】などのつながりや【方法】【長持ち】【LOHAS】などを中心とした【暮らし】【生きる】などのつながり、【貢献】を中心とした【プロジェクト】や【アイデア】【NPO】などのつながり、【旅行】を中心として【ナチュラル】や【医療】へのつな

がり【北海道】【大陸】【ツアー】などへのつながりが読み取れる。

線の太い語の関係をみると、【山】【海】や【プロジェクト】【巻き込む】【地域】といった関係が強いことがわかる。

地方移住に関連があると思われる語をみると【地方】から【住む】【特集】【子育て】へのつながり、【移住】【計画】【ニュージーランド】の関係も読み取れる。



表3:『ソトコト』No.1~No.223の特集の出版年別の特徴語

1999		2000		2001		2002	
汚す	.143	ファーストフード	.154	スローフード	.091	計画	.118
イギリス	.143	スローフード	.095	エコ	.074	スローライフ	.118
田辺	.143	エコ	.077	故郷	.071	妻項	.077
大人	.143	オーストラリア	.077	電話	.071	POP	.077
吹く	.143	旧名	.077	地域通貨	.071	年	.077
気	.143	ロボット	.077	運動	.071	紀行	.077
ベルリン	.143	ニューヨーク	.077	挑戦	.071	学校	.077
修学旅行	.143	人間	.077	ヒマラヤ	.071	捨てる	.077
空気	.143	セブンアイランズ	.077	立国	.071	緑茶	.077
ルネッサンス	.143	手帖	.077	ゴミ	.071	今日	.077
2003		2004		2005		2006	
大國	.133	カラダ	.143	ロハス	.172	ロハス	.417
スローライフ	.111	ココロ	.143	百科	.143	保存	.389
家	.105	スローフード	.091	完全	.118	完全	.188
エコ	.074	日本	.074	スローフード	.095	デザイン	.105
街	.071	輝かしい	.071	保存	.087	大全	.077
アジア	.071	英国	.071	トリノ	.077	責任	.077
王様	.071	匠	.071	県民	.077	朋樹	.077
首都	.071	実践	.071	愛蔵	.077	フード	.077
スペイン	.071	ウォーター	.071	宣言	.077	スタイルブック	.077
向かう	.071	元祖	.071	ルイ	.077	総力	.077
2007		2008		2009		2010	
Q	.143	エコ	.167	グリーン	.125	入門	.118
A	.143	グリーン	.125	建築	.077	ようこそ	.077
ロハス	.133	用語	.077	米	.077	GREEN	.077
ガイド	.105	雲南	.077	愛	.077	GUIDE	.077
購入	.077	日本食	.077	登場	.077	国産	.077
カーボンニュートラル	.077	天津	.077	知的	.077	ブラジル	.077
食品	.077	実験	.077	サブリ	.077	SHOPPERS	.077
医学	.077	エコツーリズム	.077	戦士	.077	魚	.077
探す	.077	国家	.077	信頼	.077	太陽	.077
エコセレブ	.077	学ぶ	.077	賢い	.077	生物	.071
2011		2012		2013		2014	
日本	.120	ソーシャル	.118	変える	.125	人	.111
社会	.100	災	.077	ソーシャル	.118	ブルックリン	.077
ユートピア	.077	買い	.077	社会	.100	本屋	.077
スロー	.077	滞在	.077	動かす	.077	発酵	.077
商品	.077	シェア	.077	コミュニティデザイン	.077	集まる	.077
省エネルギー	.077	アイランド	.077	図書館	.077	ポートランド	.077
九州	.077	スモール	.077	公園	.077	教科書	.077
愛	.077	使い方	.077	ギフト	.077	沖繩	.077
森林	.077	減	.077	大学	.077	トレイル	.077
遺産	.077	モノ	.077	女子	.077	冒険	.077
2015		2016		2017		2018	
地方	.167	地域	.125	地域	.200	全日本	500
ローカル	.133	人	.111	育てる	.154	プレス	500
住む	.125	ガイド	.105	地方	.105	リトル	500
トーキョー	.077	ケータリング	.077	ごちそう	.077	図鑑	250
DIY	.077	専門	.077	エリアリノベーション	.077		
居場所	.077	森	.077	はじめ	.077		
観光	.077	働く	.077	出会う	.077		
経済	.077	カタログ	.077	ソーシャルビジネス	.077		
起業	.077	ものづくり	.077	台湾	.077		
ベンチャー	.077	最新	.077	カタチ	.071		

出所:『ソトコト』No.1~No.223の特集を基にKH Coderを用いて筆者作成<sup>31)</sup>。

## 2-2 ライフストーリーの聞き取り調査

ライフストーリー法について谷(2008)は、個人の生活構造に焦点をあて、人生の一時期、一生、世代を超えた生き様などを対象として探求し、事象の個別性、固有性を重視すると同時に個別を通して普遍にいたる道を志向すると述べている<sup>32)</sup>。

これは、地方移住の動きに対して主観的な事実寄り添い、考察していくことを試みる本稿においても有用であると考えた。

### 2-2-1 調査対象と調査方法

本稿では、第1章で示したように、近年の地方移住とライフスタイル移住の概念に関係性があるのではないかという考えから、ライフスタイル移住の概念を基礎に置きながら考察したい。そこで、大きく生活様式が変更されると考えられる地方への一特に条件不利地域への一移住を中心に据え調査する。

ここで調査対象地域について押さえておきたい。



調査対象地域は鹿児島県にある離島、屋久島町である。2007年に旧上屋久町と旧屋久町が合併してできた屋久島町の人口は、2015年の時点で12,913人、第三次産業に従事する人が最も多い<sup>33</sup>。もちろん「地方中枢都市圏」から外れる「条件不利地域」である。

この屋久島町への移住者の方を対象に1時間から1時間半ほどのライフストーリーの聞き取り調査を行った。なお、対象者は筆者が直接インターネットなどから知り、会って話してもらった方や、

役場の移住に関する部署に問い合わせ紹介してもらった方、さらに調査を行ってからその友人を紹介してもらうなどの協力を得て行った。

### 2-2-2 それぞれのライフストーリー

調査に協力してくれたのは表4の10名の屋久島移住者だが、紙幅の都合上、それぞれのライフストーリーを記すことができない。これらの語りに関しては、今後の3章で引用していきたい。

表4：聞き取り調査リスト

Aさん	ガイド 2017年12月17日(日)於・会社寮
Bさん	ガイド 2017年12月17日(日)於・会社寮
Bさんの妻	2017年12月17日(日)於・ガイド会社寮
Cさん	アロマショップ店長 2017年12月18日(月)於・アロマショップ
Dさん	民宿 2017年12月22日(金)於・民宿
Eさん	会社代表 2017年12月22日(金)於・直営ショップ
Fさん	お土産物店勤務 2017年12月27日(水)於・喫茶店
Gさん	看護師 2017年12月17日(日)於・ガイド会社寮
Hさん	ガイド 2017年12月17日(日)於・会社寮
Iさん	2017年12月17日(日)於・ガイド会社寮

出所：筆者作成。

ライフストーリーの聞き取り調査ではそれぞれの人生や生活の形があり、移住というものがあくまでもその人生の結果または通過点であることから、一概に屋久島移住者について類型化するのは困難であることが分かった。しかし、その中から語りの中で多くの者に共通している点などについて考察したい。

一つ目は「アウトドア」や「自然」への親しみが挙げられる。幼少時や学生時代、現在に至るまで、それぞれの移住者によってその時期に違いはあるが、アウトドア趣味への語りや生活の中での自然への親しみの思いが語られていることが分かる。さらに自然環境などの「生活」の面に関連すると、「子育て」に関する語りや、移住前に「確認」や「リサーチ」のために屋久島を訪れる例などがみられた。

二つ目は今回聞き取りを行った移住者の全てが観光関連産業に従事していることだ。それは「ガイド」から「民宿」、「ショップ」など幅広い。またCの語りのなかでも「観光業って大抵外から来た人で、全部じゃないですけどね。」というものもあるように、観光関連の職業に携わる者が多い。移住者の全てとは言わずとも、その多くが観光関連産業に携わっているのではないだろうか。

三つ目は地域の人間関係についての語りである。多くは「子育て」つながりの関係や「貰い物」などの関係が語られた。また、「集落の清掃」といったものについても語られている。

これらのことに関しては第3章でも深く考察していきたい。

### 第3章 どのような生き方を選択するのか

#### 3-1 『TURNS』からみる地方移住の理想

雑誌『TURNS』から読み解けた地方移住の理想は大きく分けて3つあると考える。1つは「生活環境の改善」、2つ目は「自己実現可能な新たな仕事」、3つ目は「豊かな人間関係」である。またこれらは、それぞれが関連しているのではないだろうか。

1つ目の「生活環境の改善」については、『TURNS』の目次、特集から【暮らし】【暮らす】などの生活に関する語や、【島】【自然】【海】など自然に関する語が多く抽出されたことから考えた。なぜ「改善」としたかといえば『TURNS』の共起ネットワーク図を見た際【都会】と【田舎】の共起関係、また【選択】というつながりにもあらわれているように、都市部の生活環境に対し、田舎の生活環境をイメージした際、自然を中心とした田舎の生活環境が地方移住の魅力となっているのではないかと考えたからである。そこで、その「生活環境の改善」のひとつの方法として地方移住があり、それがそのまま地方移住の理想のひとつに繋がっていると考えた。

2つ目の「自己実現可能な新たな仕事」は【仕事】【ワーク】【働く】や【自分】【生かす】、【新しい】などの語が多く抽出されたことから分析した。これらに関連する語のつながりは共起ネットワークの図からも読み取れる。例えば【運営】を中心としたつながりは【活動】【育つ】等に繋がり、NPO やボランティア活動に関わるつながりにも見えなくはないが、【活動】と【就職】の共起関係も見ることができる。また、【就職】に限らず、【起業】と【成功】【秘訣】の関係も見ることができる。他にも【楽しめる】を中心とした関係や【続々】を中心とした関係からは、地方での仕事に着目していることがわかる。これらのことから、「自己実現可能な新たな仕事」を地方移住の理想のひとつとして挙げた。

3つ目の「豊かな人間関係」については、【人】という語が多く抽出されたことに着目し、共起ネットワーク図をみると、【豊か】を中心とした【里】

【山里】【資源】【人情】の関係があることがわかる。【里】や【山里】の【資源】が【豊か】であることを表現しているだろうことは想像できるが、【人情】とこれらがつながっていることは特徴的ではないだろうか。また【若者】と【つながり】などの語もみられる。これらのことから地方移住の理想のひとつとして「豊かな人間関係」を挙げる。

#### 3-2 『ソトコト』からみるLOHAS志向とその視点の変化

地方移住の理想として『TURNS』から「生活環境の改善」、「自己実現可能な新たな仕事」、「豊かな人間関係」を挙げたが、『ソトコト』からもそれを読み取ることができる。例えば、【地方】から【住む】【子育て】のつながりは「生活環境の改善」、【地域】と【プロジェクト】【巻き込む】の関係は「自己実現可能な新たな仕事」と「豊かな人間関係」に共通するように考えられる。

2-1-1 で確認したように、これらの移住に対する志向—理想—とLOHASの概念が共通しているのならば、『ソトコト』の特集の変化を分析することで、日本におけるロハスの視点の変化と地方移住の関わりを捉えることができるのではないかと考えた。

以上を踏まえたうえで、表3の『ソトコト』の特集における特徴語の変化をみてみたい。2005年までは【スローフード】や【スローライフ】といったものが中心であった。また、2005年に【ロハス】が登場してから2007年までは【ロハス】について広める時期だったことが推察される。そして2008年から2010年までは【エコ】や【グリーン】などの環境に着目していることが読み取れるだろう。しかし、2011年からは【日本】【社会】などが特徴語として上がり、国内の社会に注目が集まったことがわかる。また、これは東日本大震災の影響があったのではないかと推察される。そして2012年から2014年では【ソーシャル】や【人】といった語が特徴語として抽出され、その視点が国内の特に「つながり」や「コミュニケーション」

の部分に集まったことが予想される。そして2015年からはその視点が【地方】や【ローカル】に集まったことがわかる。また、【貢献】を中心とした共起関係からはその【地域】や【社会】に貢献しようという動きも予想される。

したがって、現在の日本における地方移住の考えやその形態はロハスの視点の変化—日本におけるロハスの概念が様々なものを内包してきたこと—によってできたものだと考えられる。2005年からその兆候はあったが、その変化の大きな契機は国内に注目しはじめた2011年だろう。2011年の東日本大震災による国内の社会への注目が、さらにつながりやコミュニケーションへの注目を集め、さらに地方への注目を集めていったとすることができそう<sup>34</sup>。

### 3-3 地方移住の現実

#### 3-3-1「生活環境の改善」について

##### 【自然】

まず、生活環境について自然を挙げるならば、屋久島への移住者の中には「もともと自然が好き」な者やアウトドアアクティビティを好む者が多い。また、屋久島への旅行をきっかけに登山などをはじめた者もいる。また、移住後もそれぞれが休日や時間の空いた時に自然と関わる活動をしていることが分かった。しかし、自然に囲まれているのには違いないが、これらの活動には「仕事」の空き時間（又は仕事中）であるという制約があることは踏まえておきたい。しかし、前職の多忙さや前住居が都市部などであることから鑑みると、自然と関わる生活については改善されていると考えられる。

例 E:「たぶん昔からなんと無く抱いていた自然の中で暮らしたいっていうのがスイッチが入ったんですよ。」

F:「想像してた生活とそんなに変わらないですけど、もっと山とか自然に休日とかバンバン行けるかなって思ってたらそう

でもなかったですね。仕事もしてるのでそこまでゆったりした生活じゃなかったです私の場合は。」

##### 【子育て】

また子育てについては、子供と遊びに行くなどの親が多く、自然で遊ばせたい親にとっては移住によって改善されたといえることができるだろう。またこれは「豊かな人間関係」にも関わるが親同士の関わりが強いことも子育て環境の改善につながる。一方で、島であるため、病院や進学等の設備やシステムなどが少ないことや分かりにくいことがあり、その点において不満があることもあった。

例 B (の妻):「子育ては危険も少ないし、なんか誘惑が少ない気がします。ゲームセンターもないプールがないから海行ったり。あと、都会に比べてすごいママたちが近いと思った。やっぱ人の子をみたりとか、都会だとなんかあったらとかちよつと預けるとかも躊躇しちゃうんだけど、こっちはすごい親戚みたい。ママ友がなんか密な感じがして預けたりとかもできる感じがする。みんなで協力してやっていかないとって感じが、身内もないし。ただ、小児科は少ないね。」

E:「子供達が受験っていう段階に来ると、なかなか島の進学事情っていうのはなんとなく漠然と大変だろうなって思ってたんですけど、しいて言うとそこが想像以上にギャップなのかな。」

屋久島の病院は宮之浦にある「屋久島徳洲会病院」のひとつである。病床数は140。診療所数は8つあるものの、病床数は0である<sup>35</sup>。緊急医療のためのドクターヘリについては鹿児島市立病院か

ら 35 分の範囲にあり、ランデブーポイントは学校校庭など 20 箇所ある。また、ドクターヘリの出勤可能時間は午前 8 時 30 分から日没前までであり、悪天候で視界不良の場合は出勤できないこともある<sup>36</sup>。これらのことから都市部と比べて屋久島の医療環境が良いかという決してそのようなことは言えない。

進学についてみていくと、屋久島町にある高校は「屋久島高校」ひとつである。屋久島高校は1学年に普通科2学級、情報ビジネス科1学級が設置されており、屋久島町の中学生の屋久島高校への進学率は70%となっている<sup>37</sup>。また、平成28年度の屋久島高校の進学・就職状況をみると、進学した46名のうち7名が4年制大学、短期大学が6名、専門学校等が33名である。就職した22名のうち公務員が3名、一般企業が19名となっている。また、進学、就職のほとんどが鹿児島や九州の学校、企業などであることが分かる<sup>38</sup>。学習塾に関しては、個人が経営している学習塾である場合が多い。また、鹿児島県において学区外の公立高校全日制普通科を志願するときには様々な制約がある<sup>39</sup>。これらのことから、進学に関する点でも都市部と比べて屋久島のほうがその環境や進路選択の幅があるかという決してそのようなことは言えない。

今後、子供の成長とともにこれらの問題にも直面していくこととなるのではないだろうか。また、移住者においてはこれらのことを含め、子供たちの未来まで想像した移住計画や「リサーチ」が求められるのではないだろうか。

### 3-3-2 「自己実現可能な新たな仕事」について

次に「自己実現可能な新たな仕事」についてみていきたい。まず移住者のほとんどが「新たな仕事」についており、前職や移住前の趣味などを活かした仕事をしている者もいたが、屋久島の場合はそこに「自己実現」を求める者は少なかったと言っているだろう。むしろ仕事は「生活のためにお金が必要であれば」稼ぐための手段であることが多い。仕事とは別のところ—生活や趣味など—

に自己実現的要素を見出す者がいた。これについては、年代や地域によって異なるのか、それとも地方移住の理想として「自己実現」と「新たな仕事」は別で存在するのか。もしくは『TURNS』で抽出された【自分】【生かす】というものが、ただ単に自分自身のスキルを活用できるというものであるのか。この部分についてはさらなる研究が必要である。

例 D:「仕事はなんでもよくて民宿もたまたまだったし、今ライターとかウェブデザインとかたまたまスキルを持つてるからそれをやってるけど、一番芯にあるところっていうのは、形は多分なんでもいいんですね。」

C:「ここで暮らすことが私にとって目標であり現実であり幸せであるので。毎日毎日の生活っていうのが全てだなんて思っていて。」

また、「仕事」については前述したように、屋久島町では第三次産業に従事している者が多く、移住者についても、これらの観光関連産業に携わる者が多いと予想される。これらの産業はゴールデンウィークと夏などの時期が繁忙期であることが移住者の語りからも分かる。観光に関してみてみると、屋久島の観光客数—入り込み客数—は、微減している<sup>40</sup>。他の産業では「農業」や「林業」の半分以上が赤字企業となっていることも指摘されている<sup>41</sup>。都市での前職よりは給料が下がる者が多かったが、この点に関してはほとんどが「気にならない」と答えた。地方でのビジネスはしばしばメディアなどで魅力的に描かれるが、起業などの成功もほんのひと握りなのではないだろうか。これらのことから、持続可能性や多様な働き方、職業選択について考えると、必ずしも「新しい仕事」があるとは言いづらい。第一次産業を支えていくことや、新しい産業を生み出していくことも必要であると考えられる。

### 3-3-3 「豊かな人間関係」について

次に「豊かな人間関係」についてみていきたい。移住者のほとんどが集落の住民や移住者どうし、観光客、仕事、子育てつながり、趣味つながりなどの関係を挙げた。また、前職などの人間関係を継続している者もいた。前職と比べ「人間関係の幅が広がった」と言う者もあり、「豊かな人間関係」が築けているように考えた。ただ、地元住民とのある程度のつながりはありながらも、観光関連の業種に携わっていることなどから、どうしても観光客や移住者同士のつながりが多くなる。また、特に「子育て」に関するつながりも特徴的であり、人生の中で結婚し、子供を育てるというライフステージに至った時の地域や人とのつながりについてはさらなる研究の余地がある。

例 A: 「僕なんか古いから結局青年団とか PTA とかあって、郷土芸能とかあるし地域のつながりはそれなりにあるし。ごちよう踊りっていうのがあって鬼火焚きの時に踊るんですけど。」

C: 「ここで生まれ育ってるわけではないので、結局こっちから動かないと(交友関係が)広がらなくて。特に観光業についていると移住者どうしばかりと話すというか(中略)なんとなく外から来た人で固まりがちになってしまうっていうか私はそれが嫌だなと思っていて、意識的に地元の人とつながることをやっています。」

今回話を聞いた移住者は、地元住民と良好な人間関係を築いていると感じた。これは地元住民側の関わり方と、移住者と地元住民双方の気遣いや、寛容な心によってもたらされていると考える。

C: 「引っ越したてとか、すごい歩み寄ってきてくれる。もっとよそ者扱いされると思っていました。」

E: 「当時はなんと無くガイドっていう仕事があんまり地元の人にも認知されてなくて(中略)ある程度馴染んでからそこは踏み出そうって思ったんですね。」

G: 「一番最初に思ったのは、島って窮屈って思った。(中略)でも、悪気はなくて島の人とあって、それが最初は窮屈だったかな。もうそういうもんだって思えばいいけど、それが嫌だったらやっていけないういかなって。」

人間関係についてはこのように一筋縄ではない部分もある。煩わしい部分もあると考える。理想と現実が大きく乖離しているとは言えないが、少しのズレはあるかもしれない。しかし、これは人と人の距離が近いから起こることだとも言える。その中で、様々な気遣いや、「そういうもんだ」と思うことなどがこれらの人間関係を築く手がかりになるのではないだろうか。

### 3-4 ライフスタイル移住者の特性と移住をもたらす要因

ここでは、ライフスタイル移住者の特性について先行研究をおさえたうえで、今回の研究の結果を踏まえ、考察を加えていきたい。また、この移住形態がどのような要因によって引き起こされるものなのかについても考察していきたい。

#### 【ライフスタイル移住者に関する共通点】

長友(2015)はライフスタイル移住が包含している新しい移住形態の共通点について、(1) 中間層をめぐる労働市場やライフコース価値観の変化が関連している点、(2) 観光や滞在経験と移住の関連性、および(3) 移住の意思決定における想像力の役割の3点を挙げている<sup>42</sup>。

これに沿って今回の屋久島移住者の語りを振り返る。まず、「中間層をめぐる労働市場やライフコース価値観の変化が関連している点」に着目する。

これらの事象は社会的な変化であるため、今回の一部の事例でたやすく言い切れるものではないが、語りの中から読み解いていくことを試みたい。今回、調査した移住者の多くが移住前の生活の中や移住をきっかけに「転職」していることがわかる。ここから「ひとつの企業に定年まで勤める」というものがなくなり、「ライフスタイルに合わせ職を変える」という社会の変化を読み取ることもできる。また、これはそれだけ雇用が流動的になっていることも表すのではないだろうか。ライフコース価値観の変化については、1-3-1で概観した「立身出世」などとは異なっており、それぞれの移住者が定まったライフコースとは異なった、進学や就職等をしていることが推察される。これについては「変化」というより、「ライフコース価値観の多様化」と言ったほうが良いのだろうか。

次に「観光や滞在経験と移住の関連性」については今回の調査のなかでも多くみられた。ただ、この観光や滞在経験は必ずしも直接的に移住先と関連しないという点を示したい。つまり、屋久島以外への観光が結果的に屋久島移住へとつながった場合があるということだ。それは、次の語りからも分かる。

例) E:「最初はカウアイ島が気に入ってカウアイ島への移住を考えたんですけど、やっぱりなかなか海外の移住となると、いろいろな面でハードルが高かったんですね。それに現実的にぶつかって。じゃあ同じような島が日本にないんだろうかっていうことで島関係の本をめくってたら目に留まったのが屋久島だったんです。」

D:「南の島に住みたかったっていうのが一番のきっかけだと思います。(中略)奄美大島の下に加計呂麻島っていう島があるんですけど、そこに一人旅をして東京では全く味わえないような体験をそこでして。(中略)いつも会社いるときに休み時間、綺麗な景色の写真を見ました。どっか

違う場所に行きたいって、遠くに行きたいってすごい思ってたから。別に特定の場所じゃないんだけど。(それを)言ったら、(屋久島移住の)きっかけになりそうなことを友達が見つないでくれたりとか。」

EさんやDさんの語りから分かるように観光先や滞在先がそのまま移住先になるとは限らないのである。これらは海外移住へのハードルや「縁」というものが考えられると同時に、屋久島の持つ特性—「島」など—が関連しあって起こった事象だと考える。つまり観光や滞在経験が生んだ土地のイメージと関連した別の土地に移住することもあるということだ。また、その移住地について今回の調査では「本」と「友達のつながり」などが挙げられた。これらの、移住者個人とは異なった存在であるメディアや友人の紹介等が移住先地域に影響する可能性があるということも示しておきたい。

長友(2015)は、日本人中間層のライフスタイル移住に関する研究について、観光の経験が実際にどのように移住の意思決定に繋がっているかというミクロな視点での研究の蓄積は少ないと指摘している<sup>43</sup>。

「移住の意思決定における想像力の役割」については、多くの移住者が実際に現地に来て、または本、インターネット、友人からなどで情報を得て移住していることが分かる。ただ、「あまり想像してなかった」者もあり、一概に「想像力」が大きな影響を及ぼしているとは言えない。しかし、それぞれが移住前になにかしらの情報を集め、それが移住や移住後の生活にも影響していることから、その意思決定において「想像力」は作用していただろうと考えられる。

例) F:「行ったときはまあふんわりですよ、住んでみたいなって感じで。そのあと埼玉に戻ってから、どうしようかなっていろいろ考えたり調べたりとかしてて、だんだん住んでみたいなって気持ちが大きくなっ

ていって。9月にもう一回来てるんですよ、その意思をどうするかを決めるために、本当に生活とかできそうなのかっていうのをこう見に来ようって思って。」

### 【ライフスタイルはどのように形成・変化し、ライフスタイル移住となるか】

これまで長友(2015)の挙げた3点<sup>44</sup>からライフスタイル移住者についてみてきたが、ここで筆者はライフスタイル移住に対しその特性として「個人的体験によるライフスタイル価値観の影響」があることを挙げたい。これは、ライフコース価値観の変化や観光や滞在経験の関連を内包する点であるが、特に移住者の「個人的体験」が、移住者のライフスタイル価値観への影響—形成、変化—を及ぼすことを示す。

今回の移住者の語りからみたと、社会的背景や個人的体験が移住者のライフスタイル価値観の形成、変化に影響を及ぼしていることが分かった。幼少時や学生時代の体験、進学、就職と仕事、余暇活動などそれぞれの体験が個人の感情などに影響を与え、ひとつの流れをもって移住者自身の現在のライフスタイル価値観を生み出しているのである。そして、その流れの中で「より良い生活」を求めた結果として、こうした地方移住に至ったと考えられる。また、地方移住自体もその流れの中の一つであり、移住後も様々な経験等を通して、ライフスタイル価値観の形成、変化が行われる可能性もある。

### 【どのような生き方を選択するのか】

これらの地方移住の広まりは、『ソトコト』の調査で分析したような社会的背景などに起因するものだという事もできるだろう。もちろん、全国に簡単に移動できるようになったことやインターネットですぐに情報にアクセスできることも大きく関わっているだろう。

そこでライフスタイル移住をもたらす要因について考えてみたい<sup>45</sup>。まず、都市から押し出すカーブッシュ要因—について考える。これは個人の

「生活」に対する都市のネガティブな面が考えられる。今回の語りの中では、「仕事」や「ビル」、「物で溢れかえっている」などが挙げられるのではないだろうか。また地方の引きつけるカーブッシュ要因—について考えると、今回の場合「自然」、「小さいコミュニティ」などが挙げられる。一見、「幸せ」と「お金」が関係ない、「(屋久島は)物が溢れかえっていない」といった語りから、都市のプッシュ要因—によるところからきた反消費主義的なものが働いているようにも考えられる。しかし、移住者の語りからライフスタイル移住に関する地方移住では、地方の引きつけるカーブッシュ要因—が重要なのではないかと考えた。もちろん都市の押し出すカーブッシュ要因—も多分に作用していると考えますが、都市部でも経済的に困らないような者の「住んでみたい」といった語りから、それよりも「ライフスタイル」という引きつける力が大きく働いているのではないかと予想する。また、このひきつける力は、「地方」という漠然としたものが持っているものではなく、前述したような移住者個人に内在する体験によってつくられた価値観が、その移住先地域のイメージや現実と一体となったときはじめてひきつける力となる。一概に地方にはライフスタイル移住者をひきつける力があるとは言えないのである。

筆者はライフスタイル移住が「個人的体験」に端を発するものだという事を前述した。

Michaela Benson, Karen O'Reilly (2009) は、ライフスタイル移住と個人について、「ライフスタイル移住の計画は、個人が自分の生活様式を模索するように制約されているにもかかわらず、自らの体質に制約されたままであり、多くの点で結果を定める、近代後期の避けられない産物。」と述べている<sup>46</sup>。

確かに、このライフスタイル移住は個人が「選択している」ように見えて、社会背景や個人の過去の経験や習慣などによって「選択させられている」と言うことができるかもしれない。また、それらはその個人が意識しないうちに起こっているかもしれない。

しかし、その制約の中でライフスタイル移住について、「選択」するのは結局その者自身であり、自らの過去の経験や社会的な事象から異なるところで「選択」するのも可能ではないだろうか。また、たとえ「選択させられている」としても、まったく同じライフヒストリーがないように、その選択や移動は無二のものではないだろうか。様々な制約の中で「どのような生き方を選択するのか」について、私たちは日々考えなければならない。なぜなら、その選択の連続こそが私たちの人生を構成していくことだと考えられるからである。

## 終章

本稿では、近年の地方移住の形態について、地方移住に関連するメディアの調査と地方移住者のライフヒストリーの調査から、地方移住の理想と現実の移住後の生活にはギャップがないのかを考察すると同時に、この移住形態がどのような背景、心情から生まれたものなのかを考察した。

第1章では、本稿における「地方」と「地方移住」とは何かを確認したうえで、日本における人口流動の動向と近年の地方移住について概観した。

第2章では、地方移住に関するメディアの調査と、地方移住者に対するライフヒストリーの聞き取り調査の結果を記した。地方移住に関するメディアの調査では、近年の地方移住について着目すべきメディアとして雑誌『TURNS』と『ソトコト』を挙げ、その目次の調査、分析を行った。また、地方移住者に対してそのライフヒストリーの聞き取り調査を行った。

第3章では、第2章で得られた結果から、地方移住の理想と現実について分析し、ライフスタイル移住者の特性を描いた。その上で、この移住形態が何によってもたらされるのかを考察した。

地方移住の理想として、雑誌『TURNS』の調査から自然や子育てに関わる「生活環境の改善」、 「自己実現可能な新たな仕事」、 「豊かな人間関係」の3点を挙げた。これらと移住者のライフヒストリーの語りを照らし合わせたところ、今回の研究では、地方移住の理想と現実について大きなギャ

ップはみられなかったと書いていいだろう。しかし、「生活環境の改善」において「子育て」に関しては病院や学校など、現実的な設備やシステムの面での問題を示した。「自己実現可能な新たな仕事」では「自己実現」と「新しい仕事」の分離がみられた。「仕事」に関しては、観光産業に偏りがあることなどを示した。「豊かな人間関係」では、豊かな人間関係が良好に保たれながらも、移住者どうしでつながりやすいことや、「島」であり人との距離が近いことからくる人間関係の煩わしさもみえた。

ライフスタイル移住に関しては、ライフヒストリーの調査から、ライフコース価値観の変化や観光や滞在経験の関連を内包する「個人的体験によるライフスタイル価値観の影響」をその特性として挙げた。さらにこれらのライフスタイル移住に関連する地方移住において、そのひきつける力に注目し、移住者個人に内在する体験や価値観がその移住先地域のイメージや現実と一体となったときはじめてひきつける力となることを推察した。

残された今後の課題として、地方移住の理想のひとつとして挙げた「自己実現可能な新たな仕事」における「自己実現」と「新しい仕事」の分離や、「豊かな人間関係」における「子育て」などの、ライフステージと関わる人間関係についてはさらなる研究の余地がある。

今回は屋久島の移住者について調査を行ったが、これが例えば地方都市ならば、結果は自ずと異なってくるのではないだろうか。また、移住者においても、例えば地方に移住したが、生活などに馴染めず、また都市に戻ってしまうということも考えられる。この事象や移住者についてもさらなる研究の余地がある。これらのことも今後の課題としたい。

現在、国や地方自治体は地域が消滅するのではないかという危機感から移住促進や地元住民の流出を避ける動きをしている。しかし、必要なのは多様なライフスタイルが実現可能な地域であるということをお忘れてはならない。限りある人口、人間、その個人がどのような生き方をするのか、選



択肢を増やす手助けをしていくのが社会の役割ではないだろうか。

また、本稿では近年の日本の地方移住について、「ライフスタイル移住」の概念に沿って論を展開した。『ソトコト』の調査からは、現在の日本における地方移住の考えやその形態はロハスの視点の変化—日本におけるロハスの概念が様々なものを内包してきたこと—によってできたものだと考えた。ライフスタイル移住についての観光や滞在経験と移住の関連については、ライフストーリーの調査から、観光や滞在経験は必ずしも直接的に移住先と関連しないという点を示した。このような本研究が、この分野のさらなる研究の蓄積に、まさに微力ではあるが一部でも、寄与できていれば幸いである。

## 参考文献

Michaela Benson, Karen

O'Reilly(2009).Migration and the search for a better way of life: a critical exploration of lifestyle migration.

*The Sociological Review*, 57 (4)608-625

井戸 聡 (2017), 「地元志向」の若者としての地域おこし協力隊—移動の枠組みと諸特性についての一考察—, 『愛知県立大学日本文化学部論集 8 巻』, pp.328-281

鹿児島県屋久島町「平成 28 年度版統計やくしま」, ([http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/t\\_yakushima/wp-content/uploads/2017/05/8cdd5d1db7c50ebd9731a6ef0fdddeb5.pdf](http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/t_yakushima/wp-content/uploads/2017/05/8cdd5d1db7c50ebd9731a6ef0fdddeb5.pdf)), 2018 年 1 月 11 日最終閲覧。

嵩 和雄 (2017), 「自治体における移住受入後の支援体制について」, 『ECPR』 Vol.38 (財団設立 40 周年号), pp.58-65

加藤源太郎 (2006), 「ロハスにおける自然観と科学観」, 『プール学院大学研究紀要』 46, , pp.145-157

金本良嗣・徳岡一幸 (2002), 「日本の都市圏設定基準」, 『応用地域学研究』 No.7, pp.1-15

響田竜蔵 (2017), 『地方暮らしの幸福と若者』,

勁草書房

作野広和 (2016), 「地方移住の広まりと地域対応—地方圏からみた「田園回帰」の捉え方—」, 『経済地理学年法』 第 62 巻, pp.324-345

貞包英之 (2015), 『地方都市を考える—「消費社会」の先端から』, 共栄書房

佐藤遼・城所哲夫・瀬田史彦 (2014), 「地方への移住関心層と移住可能層との間での地方移住生活イメージに対する選好パターンの違い—移住先地域での暮らし方・働き方の質に関するイメージに着目して—」, 『公益社団法人日本都市計画学会 都市計画論文集 vol.45』 No.3, pp.945-950

谷垣雅之 (2017), 「消滅可能性市町村へのライフスタイル移住行動に関する研究」 (<http://hdl.handle.net/10466/15393>), 2018 年 1 月 19 日最終閲覧。

谷 富夫 (2008), 『新版 ライフストーリーを学ぶ人のために』, 世界思想社

長友 淳 (2015), 「ライフスタイル移住の概念と先行研究の動向：移住研究における理論的動向および日本人移民研究の文脈を通して」, 『国際学研究』 4 巻 1 号, pp.23-32

日本創成会議・人口減少問題検討分科会, 『ストップ少子化・地方元気戦略』, (<http://www.policycouncil.jp/pdf/prop03/prop03.pdf>), 2018 年 1 月 9 日最終閲覧。

「屋久島高校卒業者の進学・就職状況 (平成 29 年 3 月 31 日現在)」, ([http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/yakushima/docs/2016092800310/file\\_contents/2017sinro.pdf](http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/yakushima/docs/2016092800310/file_contents/2017sinro.pdf)), 2018 年 1 月 18 日最終閲覧。

屋久島町「屋久島町まち・ひと・しごと創生総合戦略」平成 28 年 2 月,

([http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/t\\_yakushima/wp-content/uploads/2016/02/d0798f68d80117d8d4d1238d093612b2.pdf](http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/t_yakushima/wp-content/uploads/2016/02/d0798f68d80117d8d4d1238d093612b2.pdf)), 2018 年 1 月 18 日最終閲覧。

労働政策研究・研修機構 (2016), 「UIJ ターンの促進・支援と地方の活性化—若年期の地域移動

に関する調査結果—」JILPT 調査シリーズ No.152,  
(<http://www.jil.go.jp/institute/research/2016/documents/152.pdf>), 2018年1月12日最終閲覧。

#### Web サイト

鹿児島県「学区外の公立高校全日制普通科を志願するときは(保護者の転勤等)」,  
([http://www.pref.kagoshima.jp/ba05/kyoiku-bunka/school/koukou/nyushi/zenpen/9-1\\_504.html](http://www.pref.kagoshima.jp/ba05/kyoiku-bunka/school/koukou/nyushi/zenpen/9-1_504.html)), 2018年1月18日最終閲覧。  
鹿児島県「ドクターヘリについて」,  
(<http://www.pref.kagoshima.jp/ae01/kenkofukushi/kenko-iryo/kikan/chikiiryoyu/doctorheli.html>), 2018年1月18日最終閲覧。

#### 雑誌メディアの調査, 分析に関して

『TURNS』Vol.1~Vol.26 第一プログレス  
TURNS magazine

(<https://www.turns.jp/magazine>) 2017年12月9日最終閲覧。

TURNS Web サイト「TURNS について」

(<https://www.turns.jp/about>) 2018年1月11日最終閲覧。

『ソトコト』No.1~No.223 木楽舎 バックナンバー  
(<https://www.sotokoto.net/jp/backnumber/>)  
2017年12月9日最終閲覧。

ソトコト Web サイト「ソトコトについて」

(<https://www.sotokoto.net/jp/about/>) 2018年1月11日最終閲覧。

KH Coder の主な機能と分析手順

(<http://khc.sourceforge.net/diagram.html>)

2018年1月11日最終閲覧。

KH Coder FAQ

Index(<http://khc.sourceforge.net/FAQ.html#jaccard>)2018年1月11日最終閲覧。

KH Coder チュートリアル&ヒント

([http://khc.sourceforge.net/kh\\_tuto.html](http://khc.sourceforge.net/kh_tuto.html)) 2018年1月11日最終閲覧

『TURNS』の特集と見出しのリスト

Vol.	特集・見出し		
1	<p>住むなら、地方がおもしろい！ 空き家再生で町が生まれ変わる！ 自営業率が日本一！"好き"を仕事に 新規就農者がこの町を選ぶ理由 まだまだ知りたい！注目8地域 地域コミュニティを知るためのキーワード 地方を盛り上げる若手グループ まずはお試し！移住・交流体験プログラム 多治見に出発おう</p>	14	<p>地域とつながる 注目ローカルスポット 山里に開いたシェアオフィス 都会と田舎をつなぐ自由な空間 島につくった体験型宿泊施設 人と人をつなぐ古民家の宿 クリエイターが集まるブツカフェ 街の心よりのサードプレイス コミュニティスポット コワーキングスペース活用で心得9か条 コミュニティスポットはこれからどうなる？ 「続」の心でまちの魅力を発掘中 地方の魅力的な働き方 反対されても決意した、島で働くこと、島で暮らすこと。 自然を生かし、生かされる。世界を変えろエネルギー 先人の知恵を未来へとつないでゆく ターニングの会社図鑑 これからのローカル就職 「住んでみんか土佐佐川に！」が合言葉 人生を変えた移住 陶器のまちで、文化の発信拠点を創る。 信州の里山で、パンを焼く 自然のなかで、仲間と子育て。 Hello! 新しい自分、新しい暮らし イマドキの移住事情が知りたい！ これが移住のトレンドだ！ 自分らしい生き方を求めて、移住者が集まる里山。</p>
2	<p>石田さん、どうして地域を元気にする企業に入ったのですか？ 吉原さん、地方でパン屋を続けるヒケツ、教えてください。 清原さん、伝統産業を盛り上げる方法、教えてください。 町づくりだよ！変わりの種プレーヤー、全員集合！ 知られざる、道の駅の"移品"、運品 日本全国ご当地ヒーロー大図鑑 手しごと体験プログラム 日本全国の研修生・スタッフ募集 お茶に誘われて楽しむお茶は必ずむ町</p>	15	<p>100年続く町をめざす 町と共存するカフェの町 松本でクラフトビールの愉しみを 温泉街唯一のハンバーガー店 マルシェが原点。焼菓子とチャイの店 街の魅力を発信する 大きな蔵の古民家店 日曜日限定オフの個性派セレクトショップ 夢は商店街にお客を呼ぶるバク修理店 文化財の建築物を活用したオーガニック空間 北陸のものづくりの魅力を伝えるコミュニティスペース 伝統産業を復活させた町で初めてのゲストハウス 働きたい母親を支援でもサポート 遠方からでも来てもらえる"ベトナム"に 地方でお店始めるには？ 起業成功の秘訣 エレクトロ・ブランチ 日光珈琲オーナ 福岡説明 海と山の豊かな資源を生かし、Uターン者が活躍する島 土のある暮らし 野菜を積み、生活に生かす 日本人の知恵をつないでゆく 農の暮らしの伝統が聞く 朝生 パーマカルチャー道場 農場のそのままを体験する「農場ビュウクン」 暮らしの中心に土を取り入れた、ゴマ農家の新たな取り組み 人と風景をつなぐ 進化する暮らし方 農業法人で働く まじごと体験プログラム 自分らしい地方暮らし</p>
3	<p>あなたが暮らす地域115 地元の人と移住者が集る町 100年続く町をめざす 町と共存するカフェの町 松本でクラフトビールの愉しみを おすそ分けはあたり前！日本一(？)の移住者ウエルカムな町 なぜかものづくり人が集まる町 京都府唯一の"村" "ほどよい"移住地の暮らし あなたにおすすめの移住地はコレだ！ あなたの町の魅力はなんですか？ なぜその町が好きなんですか？ 東京の地域交流イベント 完全移住マニュアル 人とのつながりが いまもあたたかく 息づく町</p>	16	<p>海暮らしのホントのところ 山ノ家 株式会社キョウト トラポ 後藤謙和・池田史子 移住したい人、ウエルカム！ 懐の深さやチャレンジ精神に満ちた島 "農業女子"になりたい！ "農業女子"になりたい！ 継承される志。地元民と移住者と種族の可能性を未来へと紡ぐ 生まれ育った鬼首で、閉じた母校と里山を守る仕事 町のことを、聞いて、伝えるパン屋。ものづくりの人が紡ぐ表現の場所 森にスチッチを織くようにワクワクするアイスを創りだす 多くの人が地域を誇りに思うような"つなぎ手"を自覚して 苦労も豊かさも、同時にある 里山で農業を営むということ 山を守り、地域に生かされる。林業で農業と土地に根ざして働く 農業と民権者ライフ 里山の名店 里山仕事者のホントのところ 継ぎ繋ぎ 種族鳥居 岡山と関西の文化がミックス 豊かな自然と人材資源の宝庫 オスミス移住地2017 太古から残る自然と文化を未来へつなぐ おもしろい人たちが自然に集まる島 自然とまちと人の距離感がちょうどいい 商業施設から生まれる新しい人の流れ ローカル発祥の地 寺田優 2017年、地方はこうなる！ 寺田本家 代表 寺田優 中国地方のど真ん中で新たな魅力が続々と誕生中！ 地方で天職見つけました！ 些細なことで笑いあえる関係が、酪農女子としての仕事の理に 村から波紋のように広がる 毎日味が違う"生きている"パン 本舗でおいしいと思える野菜を売っている お家さんもおもしろい店がいっぱい さやかな存在感ある関係をつくり続けていきたい 山のある空間づくりを提案し、山への意識を高める 自然から着想を得て地元の素材で作品をつくる 金沢で見出した「仏師」の新しい働き方 ゲストハウスで生かされる「世話焼きお姉さん」の資質 やれることが大きいほうがかっこいい。リノベーションで百貨店も再生 コミュニティカフェから一人の可能性が開ける 市場で古本屋を営む 自分が納得のいく生活 地方は可能性だらけ！"新しいもの"を埋めていく 「消費」されるだけでなく、心に響く価値観作りを 生き方も、生きる場所も、もっと自由に選んでいく TURNS的 求人案内33 結婚後だけじゃない！海と山が身近な住みよい町 家でつながる人とまち 生産者から暮らせる個性派店主が営むカフェ 老練みそ屋の横がつながる山型の発酵仲間 祖母から受け継いだ"大入り"の味噌を伝える料理家 懐かしくて、新しい。大阪の創作おはぎ屋 おいしい油をめざして。人口150人の村に誕生した油屋 「食」で日本を変えろイノベーション15選 都会と田舎、消費者と生産者 食を通してつながる 世界規模で、クラフトビールを提案する川越のブルワリー セレクトショップのイチャオシブー in 東京 自由な住まいと暮らし方 街なかと中山間地の両方で新たなチャレンジが続々進行中！ 自由な住まいと暮らし方 京町家の不便さが暮らしやすさになる 田舎で暮らすという 社会実験中 イタリヤから直航！自分の手でつくりながら暮らす 地域とつながるシェアハウス 地方とつながる暮らしの施設と体験13選 もっと自由に移動しながら、楽しむ多拠点生活を 住人とともに"育つ"賃貸住宅を運営する 地方の個性派不動産屋 新旧のカルチャーが共存する町に魅力的な人が続出中！ 地方で子育てしたい 自然と住居と仕事は近いほうがいい 「都会の大自然」に住むという選択 つくるところをつなげる。家族の暮らし 「デュアルスクール」で、教養と学びを新しい選択 移住した母たちの地方の子育てにまつわる「理想と現実」 家族を大切にするために 僕は移住した 心算する今の瞬間を 守ることも一緒に生きるということ 三方を海に囲まれた関東の東端から 新たな魅力を発信中！ 地方の経済入門 ぐるぐるめぐる。幸せの村 田舎で熟成がすすむ 産る経済！ ギフトの世界に生きて お金から自由に たった一人のワクワク感が地域の経済を動かす 物々交換 地域通貨 クラフトファンディング シェアリングエコノミー 地域を「経営」するとは？ 地方のリアルなお財布事情 地域とつながり、こだわりをもって、コト、ものづくりに取り組む若者が増加中！</p>
4	<p>あなたが暮らす地域115 地元の人と移住者が集る町 100年続く町をめざす 町と共存するカフェの町 松本でクラフトビールの愉しみを おすそ分けはあたり前！日本一(？)の移住者ウエルカムな町 なぜかものづくり人が集まる町 京都府唯一の"村" "ほどよい"移住地の暮らし あなたにおすすめの移住地はコレだ！ あなたの町の魅力はなんですか？ なぜその町が好きなんですか？ 東京の地域交流イベント 完全移住マニュアル 人とのつながりが いまもあたたかく 息づく町</p>	17	<p>地方で夢を叶えた人びと 就職活動はこれから、でも楽しみながら町を盛り上げたい 現在、林業従事者1年生、祖父の山を次世代に渡したい！ 婚路城が工事中でも遊びに来て！婚路のいいところ教えてください。 過去の経験を生かし、理想のカフェ開店へ向け準備中。 5年間は休業。先人の思いを胸に、農業でこの町を元気づけたい！ スマート ローカルライフのすすめ 地元の働き方、盛り上げ方、巻き込み方 地方的ハードワークのすすめ 地方で働くという選択 これからの生き方、新しい働き方 自分らしい地方暮らし</p>
5	<p>都会は、これが田舎の最先端だ！ 町に思えば？若者が移住し、進化する町 僕らが見つけた、地方の仕事 日本を元気にする 神妙的ワークスタイルのすすめ 26歳移住農業女子の？超複業？という働き方 2拠点いいことどりの？幸福ワークタイム？ ニューエイジ林業チームの働き方革命 働くってなに？ 新しい働き方Q&amp;A 東京の仕事人 シゴトの流儀 まじめで奥ゆかしい種物職人の町</p>	18	<p>海暮らしのホントのところ 山ノ家 株式会社キョウト トラポ 後藤謙和・池田史子 移住したい人、ウエルカム！ 懐の深さやチャレンジ精神に満ちた島 "農業女子"になりたい！ "農業女子"になりたい！ 継承される志。地元民と移住者と種族の可能性を未来へと紡ぐ 生まれ育った鬼首で、閉じた母校と里山を守る仕事 町のことを、聞いて、伝えるパン屋。ものづくりの人が紡ぐ表現の場所 森にスチッチを織くようにワクワクするアイスを創りだす 多くの人が地域を誇りに思うような"つなぎ手"を自覚して 苦労も豊かさも、同時にある 里山で農業を営むということ 山を守り、地域に生かされる。林業で農業と土地に根ざして働く 農業と民権者ライフ 里山の名店 里山仕事者のホントのところ 継ぎ繋ぎ 種族鳥居 岡山と関西の文化がミックス 豊かな自然と人材資源の宝庫 オスミス移住地2017 太古から残る自然と文化を未来へつなぐ おもしろい人たちが自然に集まる島 自然とまちと人の距離感がちょうどいい 商業施設から生まれる新しい人の流れ ローカル発祥の地 寺田優 2017年、地方はこうなる！ 寺田本家 代表 寺田優 中国地方のど真ん中で新たな魅力が続々と誕生中！ 地方で天職見つけました！ 些細なことで笑いあえる関係が、酪農女子としての仕事の理に 村から波紋のように広がる 毎日味が違う"生きている"パン 本舗でおいしいと思える野菜を売っている お家さんもおもしろい店がいっぱい さやかな存在感ある関係をつくり続けていきたい 山のある空間づくりを提案し、山への意識を高める 自然から着想を得て地元の素材で作品をつくる 金沢で見出した「仏師」の新しい働き方 ゲストハウスで生かされる「世話焼きお姉さん」の資質 やれることが大きいほうがかっこいい。リノベーションで百貨店も再生 コミュニティカフェから一人の可能性が開ける 市場で古本屋を営む 自分が納得のいく生活 地方は可能性だらけ！"新しいもの"を埋めていく 「消費」されるだけでなく、心に響く価値観作りを 生き方も、生きる場所も、もっと自由に選んでいく TURNS的 求人案内33 結婚後だけじゃない！海と山が身近な住みよい町 家でつながる人とまち 生産者から暮らせる個性派店主が営むカフェ 老練みそ屋の横がつながる山型の発酵仲間 祖母から受け継いだ"大入り"の味噌を伝える料理家 懐かしくて、新しい。大阪の創作おはぎ屋 おいしい油をめざして。人口150人の村に誕生した油屋 「食」で日本を変えろイノベーション15選 都会と田舎、消費者と生産者 食を通してつながる 世界規模で、クラフトビールを提案する川越のブルワリー セレクトショップのイチャオシブー in 東京 自由な住まいと暮らし方 街なかと中山間地の両方で新たなチャレンジが続々進行中！ 自由な住まいと暮らし方 京町家の不便さが暮らしやすさになる 田舎で暮らすという 社会実験中 イタリヤから直航！自分の手でつくりながら暮らす 地域とつながるシェアハウス 地方とつながる暮らしの施設と体験13選 もっと自由に移動しながら、楽しむ多拠点生活を 住人とともに"育つ"賃貸住宅を運営する 地方の個性派不動産屋 新旧のカルチャーが共存する町に魅力的な人が続出中！ 地方で子育てしたい 自然と住居と仕事は近いほうがいい 「都会の大自然」に住むという選択 つくるところをつなげる。家族の暮らし 「デュアルスクール」で、教養と学びを新しい選択 移住した母たちの地方の子育てにまつわる「理想と現実」 家族を大切にするために 僕は移住した 心算する今の瞬間を 守ることも一緒に生きるということ 三方を海に囲まれた関東の東端から 新たな魅力を発信中！ 地方の経済入門 ぐるぐるめぐる。幸せの村 田舎で熟成がすすむ 産る経済！ ギフトの世界に生きて お金から自由に たった一人のワクワク感が地域の経済を動かす 物々交換 地域通貨 クラフトファンディング シェアリングエコノミー 地域を「経営」するとは？ 地方のリアルなお財布事情 地域とつながり、こだわりをもって、コト、ものづくりに取り組む若者が増加中！</p>
6	<p>あなたが暮らす地域115 地元の人と移住者が集る町 100年続く町をめざす 町と共存するカフェの町 松本でクラフトビールの愉しみを おすそ分けはあたり前！日本一(？)の移住者ウエルカムな町 なぜかものづくり人が集まる町 京都府唯一の"村" "ほどよい"移住地の暮らし あなたにおすすめの移住地はコレだ！ あなたの町の魅力はなんですか？ なぜその町が好きなんですか？ 東京の地域交流イベント 完全移住マニュアル 人とのつながりが いまもあたたかく 息づく町</p>	19	<p>地方で夢を叶えた人びと 就職活動はこれから、でも楽しみながら町を盛り上げたい 現在、林業従事者1年生、祖父の山を次世代に渡したい！ 婚路城が工事中でも遊びに来て！婚路のいいところ教えてください。 過去の経験を生かし、理想のカフェ開店へ向け準備中。 5年間は休業。先人の思いを胸に、農業でこの町を元気づけたい！ スマート ローカルライフのすすめ 地元の働き方、盛り上げ方、巻き込み方 地方的ハードワークのすすめ 地方で働くという選択 これからの生き方、新しい働き方 自分らしい地方暮らし</p>
7	<p>あなたが暮らす地域115 地元の人と移住者が集る町 100年続く町をめざす 町と共存するカフェの町 松本でクラフトビールの愉しみを おすそ分けはあたり前！日本一(？)の移住者ウエルカムな町 なぜかものづくり人が集まる町 京都府唯一の"村" "ほどよい"移住地の暮らし あなたにおすすめの移住地はコレだ！ あなたの町の魅力はなんですか？ なぜその町が好きなんですか？ 東京の地域交流イベント 完全移住マニュアル 人とのつながりが いまもあたたかく 息づく町</p>	20	<p>地方で夢を叶えた人びと 就職活動はこれから、でも楽しみながら町を盛り上げたい 現在、林業従事者1年生、祖父の山を次世代に渡したい！ 婚路城が工事中でも遊びに来て！婚路のいいところ教えてください。 過去の経験を生かし、理想のカフェ開店へ向け準備中。 5年間は休業。先人の思いを胸に、農業でこの町を元気づけたい！ スマート ローカルライフのすすめ 地元の働き方、盛り上げ方、巻き込み方 地方的ハードワークのすすめ 地方で働くという選択 これからの生き方、新しい働き方 自分らしい地方暮らし</p>
8	<p>あなたが暮らす地域115 地元の人と移住者が集る町 100年続く町をめざす 町と共存するカフェの町 松本でクラフトビールの愉しみを おすそ分けはあたり前！日本一(？)の移住者ウエルカムな町 なぜかものづくり人が集まる町 京都府唯一の"村" "ほどよい"移住地の暮らし あなたにおすすめの移住地はコレだ！ あなたの町の魅力はなんですか？ なぜその町が好きなんですか？ 東京の地域交流イベント 完全移住マニュアル 人とのつながりが いまもあたたかく 息づく町</p>	21	<p>地方で夢を叶えた人びと 就職活動はこれから、でも楽しみながら町を盛り上げたい 現在、林業従事者1年生、祖父の山を次世代に渡したい！ 婚路城が工事中でも遊びに来て！婚路のいいところ教えてください。 過去の経験を生かし、理想のカフェ開店へ向け準備中。 5年間は休業。先人の思いを胸に、農業でこの町を元気づけたい！ スマート ローカルライフのすすめ 地元の働き方、盛り上げ方、巻き込み方 地方的ハードワークのすすめ 地方で働くという選択 これからの生き方、新しい働き方 自分らしい地方暮らし</p>
9	<p>あなたが暮らす地域115 地元の人と移住者が集る町 100年続く町をめざす 町と共存するカフェの町 松本でクラフトビールの愉しみを おすそ分けはあたり前！日本一(？)の移住者ウエルカムな町 なぜかものづくり人が集まる町 京都府唯一の"村" "ほどよい"移住地の暮らし あなたにおすすめの移住地はコレだ！ あなたの町の魅力はなんですか？ なぜその町が好きなんですか？ 東京の地域交流イベント 完全移住マニュアル 人とのつながりが いまもあたたかく 息づく町</p>	22	<p>地方で夢を叶えた人びと 就職活動はこれから、でも楽しみながら町を盛り上げたい 現在、林業従事者1年生、祖父の山を次世代に渡したい！ 婚路城が工事中でも遊びに来て！婚路のいいところ教えてください。 過去の経験を生かし、理想のカフェ開店へ向け準備中。 5年間は休業。先人の思いを胸に、農業でこの町を元気づけたい！ スマート ローカルライフのすすめ 地元の働き方、盛り上げ方、巻き込み方 地方的ハードワークのすすめ 地方で働くという選択 これからの生き方、新しい働き方 自分らしい地方暮らし</p>
10	<p>あなたが暮らす地域115 地元の人と移住者が集る町 100年続く町をめざす 町と共存するカフェの町 松本でクラフトビールの愉しみを おすそ分けはあたり前！日本一(？)の移住者ウエルカムな町 なぜかものづくり人が集まる町 京都府唯一の"村" "ほどよい"移住地の暮らし あなたにおすすめの移住地はコレだ！ あなたの町の魅力はなんですか？ なぜその町が好きなんですか？ 東京の地域交流イベント 完全移住マニュアル 人とのつながりが いまもあたたかく 息づく町</p>	23	<p>地方で夢を叶えた人びと 就職活動はこれから、でも楽しみながら町を盛り上げたい 現在、林業従事者1年生、祖父の山を次世代に渡したい！ 婚路城が工事中でも遊びに来て！婚路のいいところ教えてください。 過去の経験を生かし、理想のカフェ開店へ向け準備中。 5年間は休業。先人の思いを胸に、農業でこの町を元気づけたい！ スマート ローカルライフのすすめ 地元の働き方、盛り上げ方、巻き込み方 地方的ハードワークのすすめ 地方で働くという選択 これからの生き方、新しい働き方 自分らしい地方暮らし</p>
11	<p>あなたが暮らす地域115 地元の人と移住者が集る町 100年続く町をめざす 町と共存するカフェの町 松本でクラフトビールの愉しみを おすそ分けはあたり前！日本一(？)の移住者ウエルカムな町 なぜかものづくり人が集まる町 京都府唯一の"村" "ほどよい"移住地の暮らし あなたにおすすめの移住地はコレだ！ あなたの町の魅力はなんですか？ なぜその町が好きなんですか？ 東京の地域交流イベント 完全移住マニュアル 人とのつながりが いまもあたたかく 息づく町</p>	24	<p>地方で夢を叶えた人びと 就職活動はこれから、でも楽しみながら町を盛り上げたい 現在、林業従事者1年生、祖父の山を次世代に渡したい！ 婚路城が工事中でも遊びに来て！婚路のいいところ教えてください。 過去の経験を生かし、理想のカフェ開店へ向け準備中。 5年間は休業。先人の思いを胸に、農業でこの町を元気づけたい！ スマート ローカルライフのすすめ 地元の働き方、盛り上げ方、巻き込み方 地方的ハードワークのすすめ 地方で働くという選択 これからの生き方、新しい働き方 自分らしい地方暮らし</p>
12	<p>あなたが暮らす地域115 地元の人と移住者が集る町 100年続く町をめざす 町と共存するカフェの町 松本でクラフトビールの愉しみを おすそ分けはあたり前！日本一(？)の移住者ウエルカムな町 なぜかものづくり人が集まる町 京都府唯一の"村" "ほどよい"移住地の暮らし あなたにおすすめの移住地はコレだ！ あなたの町の魅力はなんですか？ なぜその町が好きなんですか？ 東京の地域交流イベント 完全移住マニュアル 人とのつながりが いまもあたたかく 息づく町</p>	25	<p>地方で夢を叶えた人びと 就職活動はこれから、でも楽しみながら町を盛り上げたい 現在、林業従事者1年生、祖父の山を次世代に渡したい！ 婚路城が工事中でも遊びに来て！婚路のいいところ教えてください。 過去の経験を生かし、理想のカフェ開店へ向け準備中。 5年間は休業。先人の思いを胸に、農業でこの町を元気づけたい！ スマート ローカルライフのすすめ 地元の働き方、盛り上げ方、巻き込み方 地方的ハードワークのすすめ 地方で働くという選択 これからの生き方、新しい働き方 自分らしい地方暮らし</p>
13	<p>あなたが暮らす地域115 地元の人と移住者が集る町 100年続く町をめざす 町と共存するカフェの町 松本でクラフトビールの愉しみを おすそ分けはあたり前！日本一(？)の移住者ウエルカムな町 なぜかものづくり人が集まる町 京都府唯一の"村" "ほどよい"移住地の暮らし あなたにおすすめの移住地はコレだ！ あなたの町の魅力はなんですか？ なぜその町が好きなんですか？ 東京の地域交流イベント 完全移住マニュアル 人とのつながりが いまもあたたかく 息づく町</p>	26	<p>地方で夢を叶えた人びと 就職活動はこれから、でも楽しみながら町を盛り上げたい 現在、林業従事者1年生、祖父の山を次世代に渡したい！ 婚路城が工事中でも遊びに来て！婚路のいいところ教えてください。 過去の経験を生かし、理想のカフェ開店へ向け準備中。 5年間は休業。先人の思いを胸に、農業でこの町を元気づけたい！ スマート ローカルライフのすすめ 地元の働き方、盛り上げ方、巻き込み方 地方的ハードワークのすすめ 地方で働くという選択 これからの生き方、新しい働き方 自分らしい地方暮らし</p>

『ソトコト』の特集リスト

No.	特集				
1	東京の嵐が男	57	元冠スローフード、イタリア!	114	クールなエコカー
2	田辺誠一のベルリン・ルネッサンス	58	LOHASな暮らし、ココロもカラダも気持ちいい。	115	エコライフ大予言2009
3	イギリス人に気をつけろ!	59	暖かい未来、北京へ。	116	世界の頂点買戻し!
4	水と空気を汚さない国、北欧	60	知恵の塊、日本の村100選!	117	信頼の超保存版「LOVE&ボランティア」
5	大人の修学旅行	61	匠の国、日本のエコ・プロダクト	118	知的な地産エネギー学!
6	食べて元気になる	62	英国流オーガニック生活。	119	社会を変える100人の職人グリーンファイター登場!
7	サルのお金、人間の借金	63	ウォーター・スローライフ、水と暮らす。	120	「グリーンな東京ガイド」
8	山は溢れている	64	食育の秋!オナトドモのスローフード!	121	「学びの大陸、北海道」
9	ロボットで行こう!	65	実践版・北欧流、ロハスな家づくり	122	オーガニック建築
10	ビューティフル・アメリカ	66	あしたの音楽・サウンドスケープ。	123	植物愛
11	ファーストフードよりスローフードだ。	67	ロハス大予言2005!	124	ナチュラル医療&サプリ
12	週末は東京セブンアイランド(日名 伊豆七島)	68	トリノ発!スローフードの祭典。	125	生物多様性入門
13	プリウスを頼にする	69	ニューゼaland 移住計画	126	ニッポンのお米
14	エコ住宅物件ナンバリング!	70	ソトコト 的元冠NPO大百科!	127	GREEN SHOPPERS'GUIDE
15	今、ニューヨークよりシリアル	71	自然エネルギーの空軍、アフリカ入門	128	太陽型社会へようこそ!
16	有機生活inオーストラリア	72	ルイ・ヴィトンの環境宣言	129	ボランティアライフ100!
17	ファーストフードよりスローフード2	73	完全保存版「ベスト・オブ・ロハス」	130	ナチュラル旅行案内
18	ドイツ 暮らしのエコ手帳「エコ・グッズ傑作選」	74	ロハス生活100のヒント!	131	グリーンファイター100!
19	馬で癒されたい。	75	完全愛蔵版ロハス・スクール・ランキング114	132	60の誠実な会社の話
20	正しい野菜と肉、オーガニック農業。	76	観覧保存版別冊掲載! 農民スローフード大百科	133	鹿のエコロジー
21	環境立国 ニューゼaland!	77	LOHAS 100まで生きる99の方法	134	自分を長持ちさせる100の方法
22	赤い中国は緑の中へ エコロジー大運動!	78	森と音楽のロハス読楽!み方	135	環境大陸・ブラジル入門
23	イタリア、小さな村のスローフード	79	ロハスデザインのキーワード66	136	食食&国産食材辞典
24	エコ・アドベンチャー、ヒマラヤにゴミを捨てる男。	80	ロハス大予言2006!	137	新・生物多様性入門
25	エコ住宅のことならここに電話! リスト100	81	ニューゼaland 移住計画読楽!!	138	日本列島移住計画
26	不老長寿、100歳まで生きる。	82	【保存版】ロハスNPO+NGO大図鑑	139	社会と自分を幸せにする商品
27	森の国、ネットの国、フィンランド。	83	ロハス大図17アメリカの歩き方。	140	世界をよくする金融観
28	地域通貨の旗幟のカナダ	84	【完全保存版】ロハス健康大百科	141	省エネルギーを知らう
29	スローフードの故郷、京都へ。	85	【完全保存版】ザ・ベスト・オブ・ロハスデザイン	142	あしたの社会貢献100
30	スローライフプロダクト、ヨーロッパの長持ち製品一覧。	86	【総力特集】ロハスな子育て!	143	日本を元気にする九州の100人
31	捨てられない、人生の一冊。	87	【完全保存版】ロハス・ミュージアム・ガイド	144	60の誠実な会社の話2
32	POPボランティア、募集要項大掲載!	88	【保存版】ロハス大図鑑2007	145	森林愛
33	女の顔、上海。	89	【保存版】健康方程式・山編!	146	北海道 森と植物旅行
34	デンマークのデは、デザインのデ。	90	【保存版】松原翔貴責任編集!ロハス・スタイルブック2007	147	エコハウスのこと
35	韓国のスローフードはどうなっているのか!	91	ロハス大予言2007!!	148	日本の食料遺産
36	30歳からの、ニューゼaland 移住計画!	92	食育2.0 Q&A	149	スロー&ナチュラル医療
37	中国、緑茶大紀行。	93	ロハスNPO+NGO大図鑑2007	150	日本の環境エコピア
38	森の学校、ドイツの環境教育!	94	エコ旅100選	151	ベスト・オブ社会をよくするお買いモノ
39	スローライフ!笑顔で生きるためのNPO、100選!	95	次世代エネルギーQ&A	152	あたらしい自給自足
40	今日から始める、自給自足10年計画!	96	世界のエコレブ101人	153	ボランティア3.0
41	野生が騒ぐ、アフリカ大陸 エコツアー!	97	ロハスプロダクト 購入ガイド	154	減災のための3.11学
42	日本のスローライフは東北から。	98	予防医学で長生きしたい!	155	ソーシャルな子育て
43	スローライフ大図、ポルトガル!	99	【保存版】ロハススクール・ベストガイド	156	ニッポンの健康旅
44	スローフードの王様はどなた!	100	カーボンニュートラルな国ニッポン	157	楽しい海と山の滞在計画
45	日本の家は高すぎる。ニューゼalandに永住せよ!	101	日本の有機食品を探せ!	158	これらのお金の使い方!
46	アンチ・ハワイという人向け、ティープなハワイ!	102	森の魔力。	159	シェアして暮らす家
47	アジアの首都、上海!	103	グリーンロハス大予言2008	160	ハワイはソーシャル・アイランド
48	癒し系医療を知っていますか?	104	全日本食育都市ランキング100	161	スモール・ミュージアムガイド100
49	夏休み、エコ体験ツアー100選!	105	完全保存版「LOVE&ボランティア」	162	若い農家が日本を変える!
50	スローライフ大図、ドン・キホーテのスペイン	106	グリーンエネルギー入門	163	ソーシャルなギフト
51	家と街から暮らしを変える! 北欧&東京	107	北京 上海 天津 雲南 エコツーリズム	164	日本の地方に住んでみる
52	取り戻せ、食文化! キーワードは食育。	108	エコデザイン2008	165	社会を変えるNPOのアイデア集!
53	本当のエコ・カーはどこに向かっているのか?	109	英訳国家アイランドへ!	166	みんなのエネルギー入門
54	農業バカンスドイツ	110	使えるエコ用語大辞典	167	おすすめの図書館
55	ココロとカラダに良いお酒。	111	環境スクールで学びたい!	168	野菜をつくって未来を変える
56	ニューゼalandの奥の奥へ。	112	エコプラネットに住もう! 11きもの大特集	169	楽しいローカル旅
		113	ソトコト 的スポーツ&エコ白書		
				170	社会を動かす女子
				171	人をつなげる家
				172	ソーシャル系大学案内
				173	おすすめの公園
				174	コミュニティデザイン術
				175	世界をよくする会社
				176	なじみの本屋
				177	未来をひらくNPOのアイデア集
				178	暮らしがよくなる地方
				179	ソーシャルの教科書
				180	日本のトレイル
				181	人がつながる沖縄
				182	うつくしいデザイン
				183	人が集まる家と庭
				184	収穫のすすめ
				185	ポートランド&ブルックリンのまちづくり
				186	発酵をめぐる冒険
				187	地方の仕事
				188	行きつけの喫茶店
				189	アイデアにあふれる社会貢献プロジェクト
				190	あたらしい経済
				191	トキオをつなげる観光案内
				192	みんなとつくるDIY
				193	地方で起業するローカルベンチャー
				194	日本の地方に住んでみる2016
				195	住み方特集・わたしの居場所
				196	みんなの多様性
				197	ヨーロッパのローカル・デザイン術
				198	山、海、里のこと
				199	遠くへ行きたい!ゲストハウス・ガイド
				200	あたらしい移住のカチ
				201	人を巻き込む地域のプロジェクト
				202	たのしい地域の専門店
				203	地方の働き方カタログ
				204	コミュニティのつくり方
				205	ものづくり×ソーシャル・デザイン
				206	水迎のまちづくり
				207	人がつながる家とまち
				208	地元のごはん/農新ケータリング、ガイド
				209	日本の森で、起きていること
				210	本と、本がつくる場所
				211	日本の地方に住んでみる2017
				212	地方のデザイン
				213	地域を巻き込むローカル・プロジェクト
				214	多様性を育てる社会
				215	地域の編集術
				216	ゲストハウス・ガイド~人に会おう旅~
				217	移住のはじめ方Q&A
				218	エリアリノベーション術
				219	あたらしい移住のカチ
				220	地域を育てるソーシャルビジネス
				221	山のごちそう、海のごちそう
				222	台湾のまちづくり
				223	全日本トリプルレス図鑑

## 注

<sup>1</sup> 例えば作野(2016)は2000年代以降、大都市圏から地方圏への移住がブームのように巻き起こってきたと述べ、さらに2011年の東日本大震災を契機に大都市圏における暮らしのあり方が見直されるようになり、地方圏への分散を確認していると述べた上で、「田園回帰」という現象について考察している。

作野広和(2016)、「地方移住の広まりと地域対応—地方圏からみた「田園回帰」の捉え方—」、『経済地理学年法』第62巻, pp.324-345

また、嵩(2017)は「ふるさと回帰支援センター」への相談件数や相談者の年代の変化から、20代や30代などの若い移住希望者や移住者が増加していることを示している。

嵩和雄(2017)、「自治体における移住受入後の支援体制について」、『ECPR』Vol.38(財団設立40周年号), pp.58-65

<sup>2</sup> 「地域おこし協力隊」についてその困難や課題について主観的なインタビューに基づき研究したもの。

井戸聡(2017)、「「地元志向」の若者としての地域おこし協力隊—移動の枠組みと諸特性についての一考察—」、『愛知県立大学日本文化学部論集8巻』, pp.328-281

<sup>3</sup> 地方暮らしの若者について広島県の府中町と三次市において郵送調査とデプス・インタビュー調査から地方暮らしの若者の幸福の成立条件と社会的課題について考察したもの。

饒田竜蔵(2017)、『地方暮らしの幸福と若者』, 勁草書房, pp.10-21

<sup>4</sup> 金本・徳岡(2002)によって提案された概念。

(1) 中心都市をDID人口によって設定し、(2) 郊外都市を中心都市への通勤率が10%以上の市町村とし、(3) 同一都市圏内に複数の中心都市が存在することを許容する都市圏を設定する。

金本良嗣・徳岡一幸(2002)、「日本の都市圏設定基準」、『応用地域学研究』No.7, pp.1-15

<sup>5</sup> 饒田竜蔵(2017)、『地方暮らしの幸福と若者』, 勁草書房, pp.58-63

<sup>6</sup> 同上 pp.58-63

<sup>7</sup> 佐藤遼・城所哲夫・瀬田史彦(2014)、「地方への移住関心層と移住可能層との間での地方移住生活イメージに対する選好パターンの違い—移住先地域での暮らし方・働き方の質に関するイメージに着目して—」、『公益社団法人日本都市計画学会 都市計画論文集 vol.45』No.3, p.945

<sup>8</sup> 饒田竜蔵(2017)、『地方暮らしの幸福と若者』, 勁草書房, pp.58-63

<sup>9</sup> 佐藤遼・城所哲夫・瀬田史彦(2014)、「地方への移住関心層と移住可能層との間での地方移住生活イメージに対する選好パターンの違い—移住先地域での暮らし方・働き方の質に関するイメージに着目して—」、『公益社団法人日本都市計画学会 都市計画論文集 vol.45』No.3, p.945

<sup>10</sup> 労働政策研究・研修機構(2016)によればUターンとは生まれ育った故郷から都会に移住した後再び故郷に移住すること。Jターンとは生まれ育った故郷から都会に移住した後、故郷にほど近い地方都市に移住すること。Iターンとは生まれ育った故郷から故郷にはない要素を求めて、故郷とは別の地域に移住することである。個人アンケート調査ではJターンについて、出身市町村ではなく出身県内の他市町村へ移住することとしている。

労働政策研究・研修機構(2016)、「UIJターンの促進・支援と地方の活性化—若年期の地域移動に関する調査結果—」JILPT調査シリーズNo.152, p.3

<sup>11</sup> Michaela Benson, Karen O'Reilly(2009)はこのようなライフスタイル移住者が増えている中で標準的な移住論ではめったにカバーされていないという文脈でこの言葉を用いている。(筆者訳)

Michaela Benson, Karen O'Reilly(2009).Migration and the search for a better way of life: a critical exploration of lifestyle migration.

*The Sociological Review*, 57(4)608-625

<sup>12</sup> 長友淳(2015)、「ライフスタイル移住の概念と先行研究の動向：移住研究における理論的動向および日本人移民研究の文脈を通して」、『国際学研究』4巻1号, pp.24-27

<sup>13</sup> 2010年から2040年にかけて、20~39歳の若年女性人口が5割以下に減少する市区町村。このまま人口が推移すると消滅する可能性がある市区町村。

日本創成会議・人口減少問題検討分科会、『ストップ少子化・地方元気戦略』,

(<http://www.policycouncil.jp/pdf/prop03/prop03.pdf>), 2018年1月9日最終閲覧。

<sup>14</sup> 労働政策研究・研修機構(2016)はこれらの移住理由が少数派となったことに関して大規模なアンケートではどうしても就職、転勤、結婚等のライフイベントに関するものが多くなってしまふことと、移住経験を把握する調査であることから最近のトレンドを十分に反映できていない可能性を挙げている。

労働政策研究・研修機構(2016)、「UIJターンの促進・支援と地方の活性化—若年期の地域移動に

関する調査結果—JILPT 調査シリーズ No.152, pp.31-34

<sup>15</sup> TURNS Web サイト, 「TURNS について」, (<https://www.turns.jp/about>), 2018 年 1 月 11 日最終閲覧。

<sup>16</sup> ちなみに, 『TURNS』の前身として 2003 年～2012 年に発刊されていた『自休自足』がある。

<sup>17</sup> 加藤 (2006) によるとロハスとは, 「社会学者のレイ (P. H. Ray) と心理学者のアンダーソン (S. R. Anderson) が全米で 10 万人以上を対象に行った社会階層研究によって導き出された Cultural Creatives という層の持つ価値観から, エコロジー製品企業ガイア (Gaiam) の社長リサビ (J. Rysavy) がレイに話をもちかけて生まれたマーケティングコンセプト」のことである。また加藤 (2006) は「日本におけるロハスは, 健康や環境を志向するライフスタイルであるという認識が一般的」と述べている。

加藤源太郎 (2006), 「ロハスにおける自然観と科学観」, 『プール学院大学研究紀要』, 46 pp.145-146

<sup>18</sup> ソトコト Web サイト, 「ソトコトについて」, (<https://www.sotokoto.net/jp/about/>), 2018 年 1 月 11 日最終閲覧。

<sup>19</sup> 加藤源太郎 (2006), 「ロハスにおける自然観と科学観」, 『プール学院大学研究紀要』, 46 p.146

<sup>20</sup> 谷垣雅之 (2017), 「消滅可能性市町村へのライフスタイル移住行動に関する研究」, pp.95-104 (<http://hdl.handle.net/10466/15393>)

<sup>21</sup> 『TURNS』Vol.1～Vol.26 第一プログレス TURNS magazine, (<https://www.turns.jp/magazine>) 2017 年 12 月 9 日最終閲覧。

『ソトコト』No.1～No.223 木楽舎 バックナンバー, (<https://www.sotokoto.net/jp/backnumber/>) 2017 年 12 月 9 日最終閲覧。

<sup>22</sup> KH Coder の主な機能と分析手順, (<http://khc.sourceforge.net/diagram.html>), 2018 年 1 月 11 日最終閲覧。

<sup>23</sup> 『TURNS』のテキストデータで強制抽出した語は, 【伝統産業】【ご当地】【手しごと】【ほどよい】【つながり】【セレクトショップ】【クラフトビール】【空き店舗】【コミュニティ】【伝統工芸】【リノベ】【ゲストハウス】【パーマカルチャー】【デュアルスクール】【クラウドファンディング】である。総抽出語 (使用) : 2633 (1351), 異なり語数 (使用) : 864 (685)

<sup>24</sup> 出現回数。また, 集計単位は文。

<sup>25</sup> 集計単位は文。共起関係は語と語。データ中に

みられる相対的に強い関連を描くため jaccard 係数を 0.2 以上に設定した。

<sup>26</sup> 『ソトコト』のテキストデータで強制抽出した語は【オーガニック】【スローライフ】【スローフード】【ソトコト】【ファーストフード】【地域通貨】【サウンドスケープ】【省エネルギー】【コミュニティデザイン】【コミュニティ】【ものづくり】【エリアルノベーション】【まちづくり】である。

総抽出語 (使用) : 1427 (776), 異なり語数 (使用) : 536 (405)

<sup>27</sup> 出現回数。また, 出現単位は文。

<sup>28</sup> 集計単位は文。共起関係は語と語。データ中にみられる相対的に強い関連を描くため jaccard 係数を 0.2 以上に設定した。

<sup>29</sup> 共起ネットワークは Jaccard 係数によって共起の強さを図っている。

KH Coder

FAQIndex(<http://khc.sourceforge.net/FAQ.html#jaccard>)2018 年 1 月 11 日最終閲覧。

<sup>30</sup> 表 3 の特徴語は Jaccard 係数によって測られる。1 に近づくほど特徴的。KH Coder チュートリアル&ヒント

([http://khc.sourceforge.net/kh\\_tuto.html](http://khc.sourceforge.net/kh_tuto.html)) 2018 年 1 月 11 日最終閲覧。

<sup>31</sup> 出版年ごとに分け特徴語を抽出している。語の横の数字は jaccard 係数。

<sup>32</sup> 谷富夫 (2008), 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』, 世界思想社, pp.4-5

<sup>33</sup> 2016 年時点で最も多いのが宿泊業, 飲食サービス業で 1, 163 人, 次点が卸売業, 小売業 1, 056 人である。鹿児島県屋久島町「平成 28 年度版統計やくしま」, pp.1-10,

([http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/t\\_yakushima/wp-content/uploads/2017/05/8cdd5d1db7c50ebd9731a6ef0fdddeb5.pdf](http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/t_yakushima/wp-content/uploads/2017/05/8cdd5d1db7c50ebd9731a6ef0fdddeb5.pdf)), 2018 年 1 月 11 日最終閲覧。

<sup>34</sup> ちなみに 2-1-2 で確認したように, 『TURNS』は 2012 年創刊である。このことから 2011 年から 2012 年が, 近年の地方移住に関するひとつの契機である可能性が考えられる。

<sup>35</sup> 鹿児島県屋久島町「平成 28 年度版統計やくしま」, p.29,

([http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/t\\_yakushima/wp-content/uploads/2017/05/8cdd5d1db7c50ebd9731a6ef0fdddeb5.pdf](http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/t_yakushima/wp-content/uploads/2017/05/8cdd5d1db7c50ebd9731a6ef0fdddeb5.pdf)), 2018 年 1 月 11 日最終閲覧。

<sup>36</sup> 鹿児島県「ドクターヘリについて」,

(<http://www.pref.kagoshima.jp/ae01/kenko-fukushi/kenko-iryoku/kikan/chikiiryoku/doctorheli.html>), 2018 年 1 月 18 日最終閲覧。

<sup>37</sup> 屋久島町「屋久島町まち・ひと・しごと創生総合戦略」, 平成 28 年 2 月, pp.6-7,

([http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/t\\_yakushima/wp-content/uploads/2016/02/d0798f68d80117d8d4d1238d093612b2.pdf](http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/t_yakushima/wp-content/uploads/2016/02/d0798f68d80117d8d4d1238d093612b2.pdf)), 2018 年 1 月 18 日最終閲覧。

<sup>38</sup> 「屋久島高校卒業者の進学・就職状況 (平成 29 年 3 月 31 日現在)」,

([http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/yakushima/docs/2016092800310/file\\_contents/2017sinro.pdf](http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/yakushima/docs/2016092800310/file_contents/2017sinro.pdf)), 2018 年 1 月 18 日最終閲覧。

<sup>39</sup> 学区外の全日制普通科を志願する場合, 県立高校においては「保護者の転勤や転居等やむを得ない理由が生じたとき」や「出身中学の所在地と保護者の住所地の属する学区が異なるとき」などの理由で申請し, 鹿児島県教育委員会に許可, または指定をうけるか, 一定枠 (5%~10%) 内の学区外入学志願により志願しなければならない。「学区外の公立高校全日制普通科を志願するときは(保護者の転勤等)」,

([http://www.pref.kagoshima.jp/ba05/kyoiku-bunka/school/koukou/nyushi/zenpen/9-1\\_504.html](http://www.pref.kagoshima.jp/ba05/kyoiku-bunka/school/koukou/nyushi/zenpen/9-1_504.html)), 2018 年 1 月 18 日最終閲覧。

<sup>40</sup> 屋久島町の入り込み客数は, 平成 19 年度の 406, 387 人をピークに少しずつ減少しており, 平成 27 年度には 274, 095 人になっている。これについては, これからも減少し続けるのか, それともある一定の人数で「落ち着いた状態」であると言えるのかは議論が分かるところであり, 今後もその動向を見守り, 調査していく必要がある。鹿児島県屋久島町「平成 28 年度版統計やくしま」, p.43,

([http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/t\\_yakushima/wp-content/uploads/2017/05/8cdd5d1db7c50ebd9731a6ef0fdddeb5.pdf](http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/t_yakushima/wp-content/uploads/2017/05/8cdd5d1db7c50ebd9731a6ef0fdddeb5.pdf)), 2018 年 1 月 11 日最終閲覧。

<sup>41</sup> 屋久島町「屋久島町まち・ひと・しごと創生総合戦略」, 平成 28 年 2 月, p.5

([http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/t\\_yakushima/wp-content/uploads/2016/02/d0798f68d80117d8d4d1238d093612b2.pdf](http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/t_yakushima/wp-content/uploads/2016/02/d0798f68d80117d8d4d1238d093612b2.pdf)), 2018 年 1 月 18 日最終閲覧。

<sup>42</sup> 長友淳 (2015), 「ライフスタイル移住の概念と先行研究の動向: 移住研究における理論的動向および日本人移民研究の文脈を通して」, 『国際学研究』4 巻 1 号, pp.24-27

<sup>43</sup> 長友淳 (2015), 「ライフスタイル移住の概念と先行研究の動向: 移住研究における理論的動向および日本人移民研究の文脈を通して」, 『国際学研究』4 巻 1 号, p.30

<sup>44</sup> 同上 pp.24-27

<sup>45</sup> 多くの場合, 人の移動に関する研究では押し出すカーブッシュ要因と, 引きつけるカープル要因で理解されてきた。これらでは語りきれないような要因があることを理解しながらも, 本稿でも, ライフスタイルに関わる地方移住についてこれらの観点から考察していきたい。

<sup>46</sup> 筆者訳。

Michaela Benson, Karen O'Reilly (2009) は「The lifestyle migration project can thus be seen as an inevitable outcome of late modernity in which individuals are constrained to seek their own styles of life yet remain constrained within their own habitus, which in many ways prescribes the outcome.」と述べている。

Michaela Benson, Karen O'Reilly(2009).Migration and the search for a better way of life: a critical exploration of lifestyle migration.

*The Sociological Review*, 57 (4)608-625